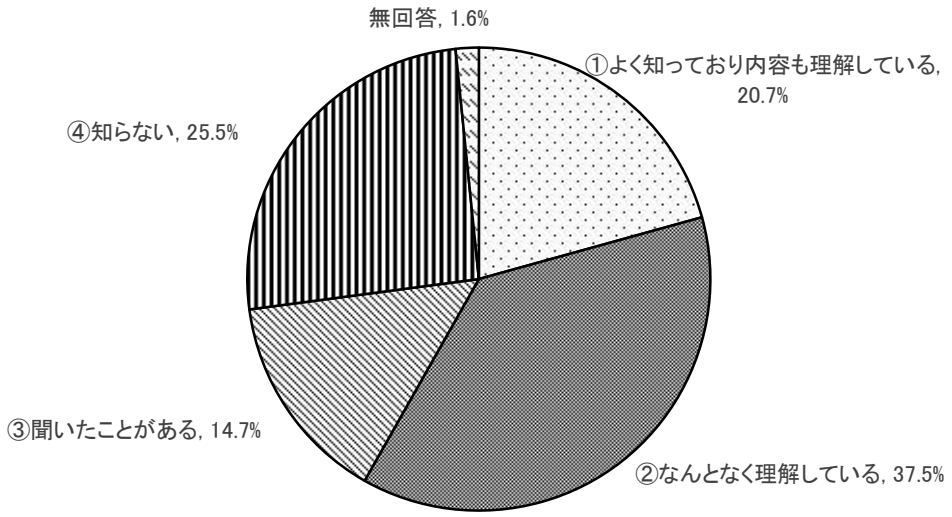
２.３ ごみの減量・3R・循環経済の取り組み等について

２.３.１ 「3R」の認知度

「②なんとなく理解している」の割合が最も高く 37.5％となっている。次いで、「④知らない（25.5％）」、「①よく知っており内容も理解している（20.7％）」となっている。

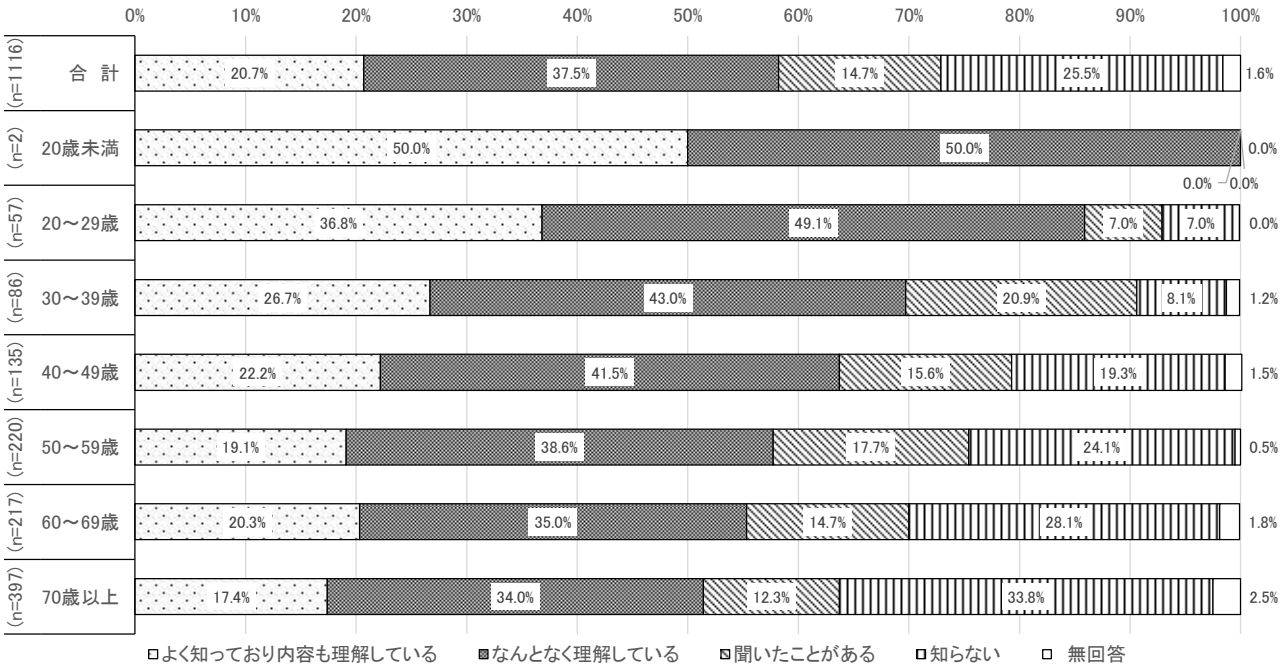
図表 87 3R の認知度

（n=1116）



年齢別に見ると、「よく知っており内容も理解している」と「何となく理解している」の割合の合計は年齢が高いほど低い傾向にある。

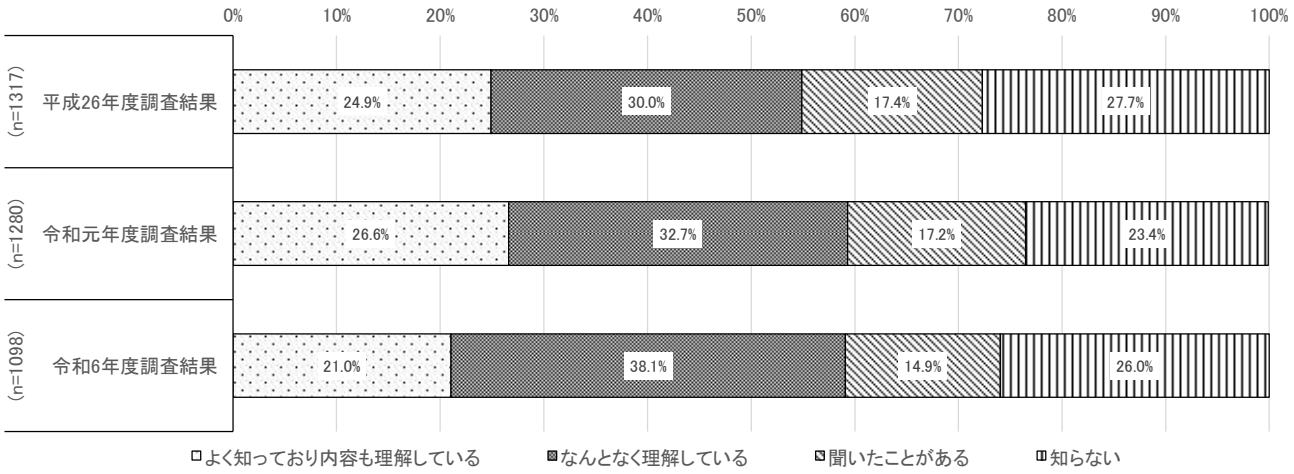
図表 88 3R の認知度(年齢別)



	合 計	よく知っており内容も理解している	なんとなく理解している	聞いたことがある	知らない	無回答
合 計	1116	231	418	164	285	18
	100.0%	20.7%	37.5%	14.7%	25.5%	1.6%
20歳未満	2	1	1	0	0	0
	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	57	21	28	4	4	0
	100.0%	36.8%	49.1%	7.0%	7.0%	0.0%
30～39歳	86	23	37	18	7	1
	100.0%	26.7%	43.0%	20.9%	8.1%	1.2%
40～49歳	135	30	56	21	26	2
	100.0%	22.2%	41.5%	15.6%	19.3%	1.5%
50～59歳	220	42	85	39	53	1
	100.0%	19.1%	38.6%	17.7%	24.1%	0.5%
60～69歳	217	44	76	32	61	4
	100.0%	20.3%	35.0%	14.7%	28.1%	1.8%
70歳以上	397	69	135	49	134	10
	100.0%	17.4%	34.0%	12.3%	33.8%	2.5%

令和 6 年度調査は、令和元年度調査よりも「よく知っており内容も理解している」の割合が 5.6 ポイント低くなり、「なんとなく理解している」の割合が 5.4 ポイント、「知らない」の割合が 2.6 ポイント高くなっていることから、3R の認知度が低くなっていることがうかがえる。

図表 89 平成 26 年度及び令和元年度調査結果との比較

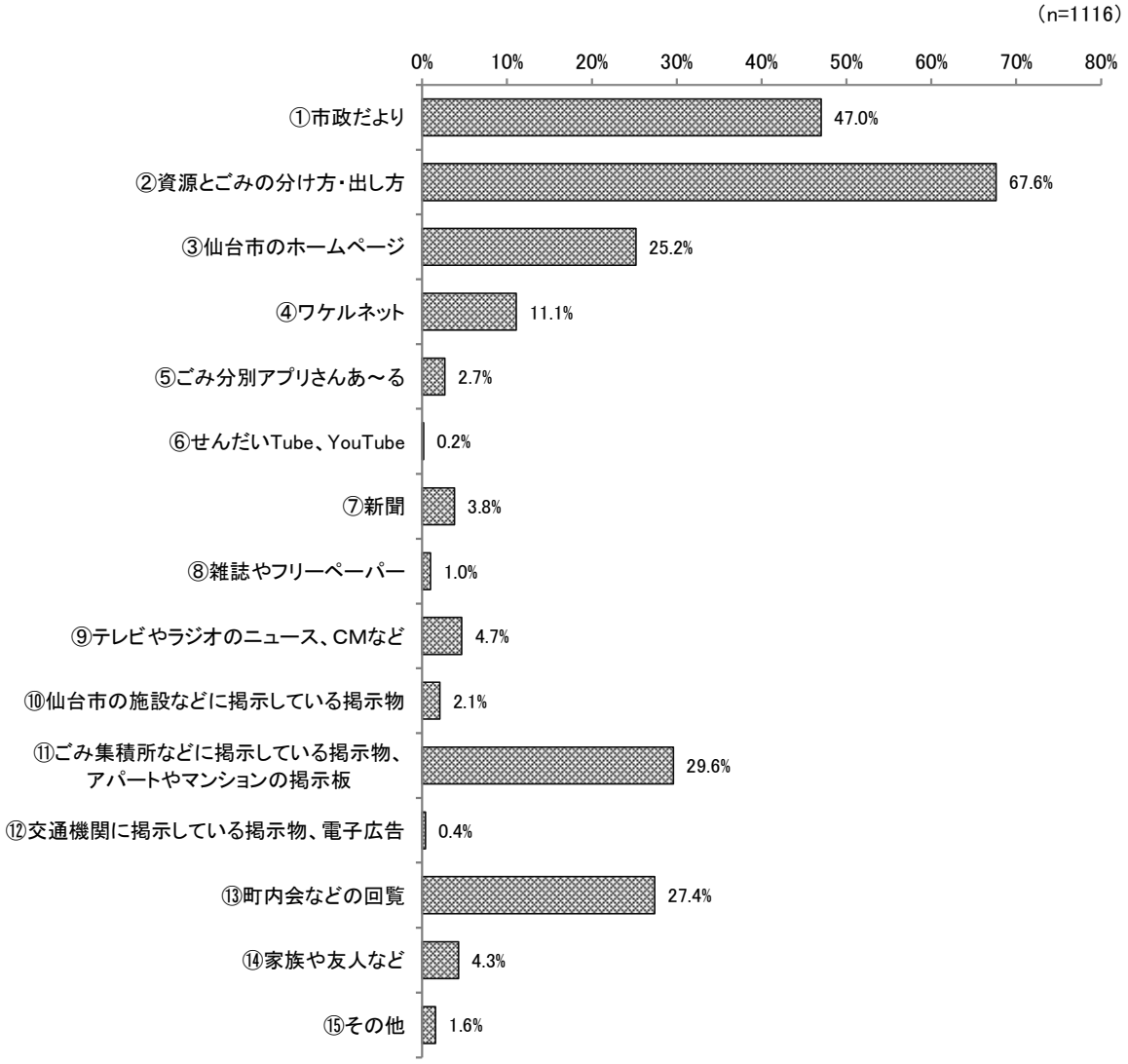


※無回答を除いて集計

２.３.２ ごみに関する情報を知る方法

「②資源とごみの分け方・出し方」の割合が最も高く 67.6%となっている。次いで、「①市政だより（47.0%）」、「⑪ごみ集積所などに掲示している掲示物、アパートやマンションの掲示板（29.6%）」となっている。

図表 90 ごみに関する情報を知る方法 ※該当するもの3つまで回答

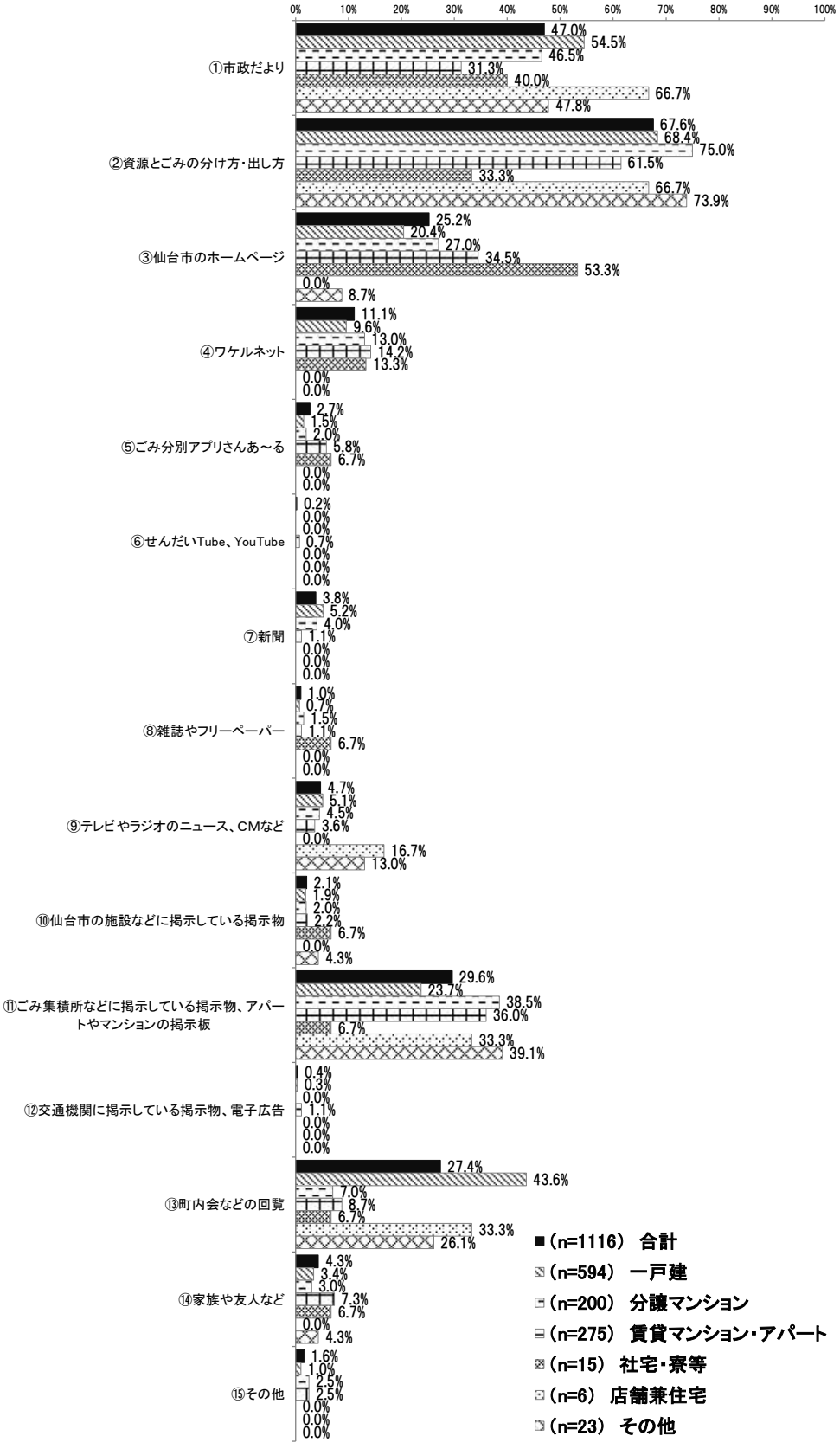


年齢別に見ると、「①市政だより」、「②資源とごみの分け方・出し方」「⑬町内会などの回覧」の割合は、年齢が高いほど高い傾向にある。「③仙台市のホームページ」の割合は、年齢が高いほど低い傾向にある。「④ワケルネット」の割合については、40 代まで年齢が高くなるほど高いが、50 代以降は年齢が上がるにつれ低い傾向にある。

図表 91 ごみに関する情報を知る方法(年齢別)

居住形態別に見ると、「社宅・寮等」以外は、いずれも「②資源とごみの分け方・出し方」の割合が最も高い。

図表 92 ごみに関する情報を知る方法(居住形態別)

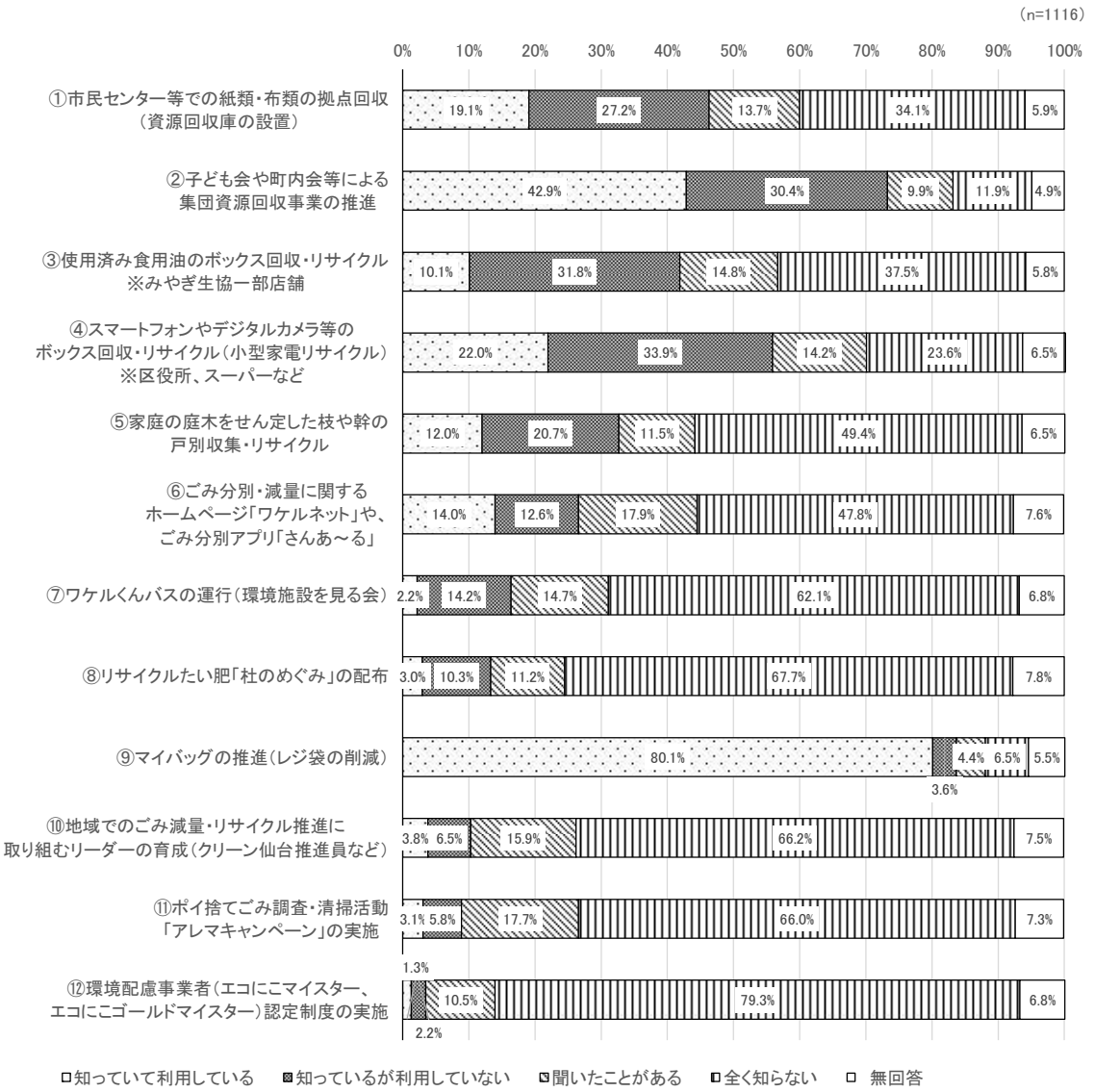


2.3.3 市のごみ減量・3R 推進に関する取り組みの認知度

「知っていて利用している」の割合が高い取り組みは、「⑨マイバッグの推進（レジ袋の削減）（80.1%）」、「②子ども会や町内会等による集団資源回収事業の推進（42.9%）」、「④スマートフォンやデジタルカメラ等のボックス回収・リサイクル（小型家電リサイクル）※区役所、スーパーなど（22.0%）」となっている。

「全く知らない」の割合が高い取り組みは、「⑫環境配慮事業者（エコにこマイスター、エコにこゴールドマイスター）認定制度の実施（79.3%）」、「⑧リサイクルたい肥「杜のめぐみ」の配布（67.7%）」、「⑩地域でのごみ減量・リサイクル推進に取り組むリーダーの育成（クリーン仙台推進員など）（66.2%）」となっている。

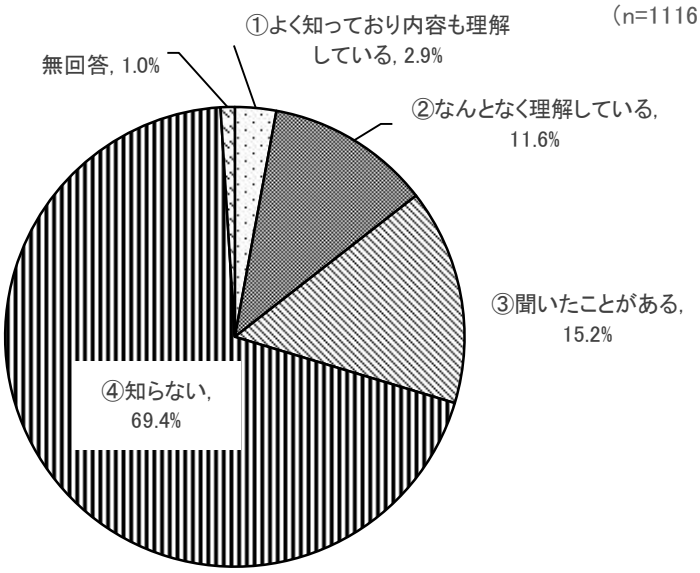
図表 93 市のごみ減量・3R 推進に関する取り組みの認知度



２.３.４ 「循環経済（サーキュラーエコノミー）」の認知度

「④知らない」の割合が最も高く 69.4%となっている。次いで、「③聞いたことがある（15.2%）」、「②なんとなく理解している（11.6%）」となっている。

図表 94 「循環経済（サーキュラーエコノミー）」の認知度

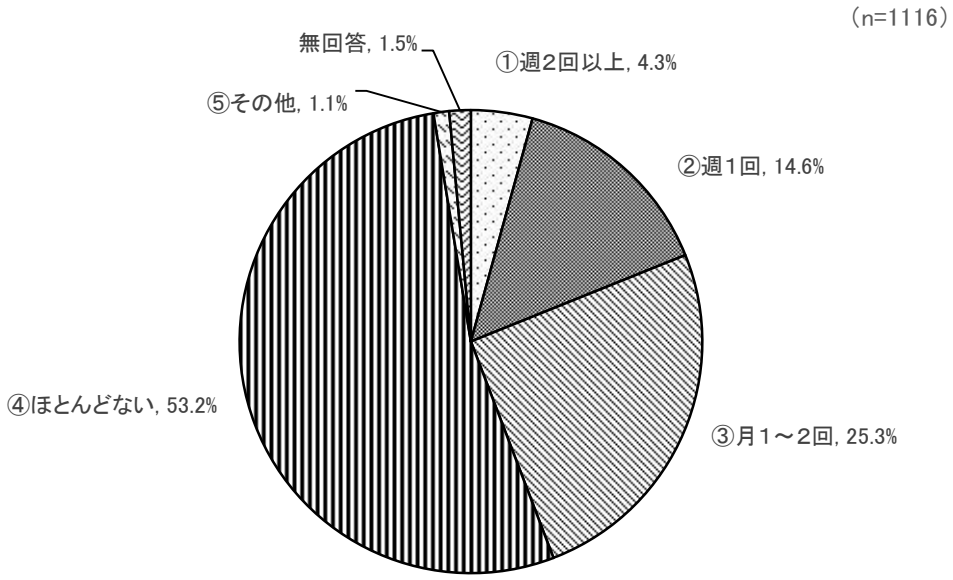


２.４ 食品ロス・生ごみについて

２.４.１ 食品ロスの排出頻度

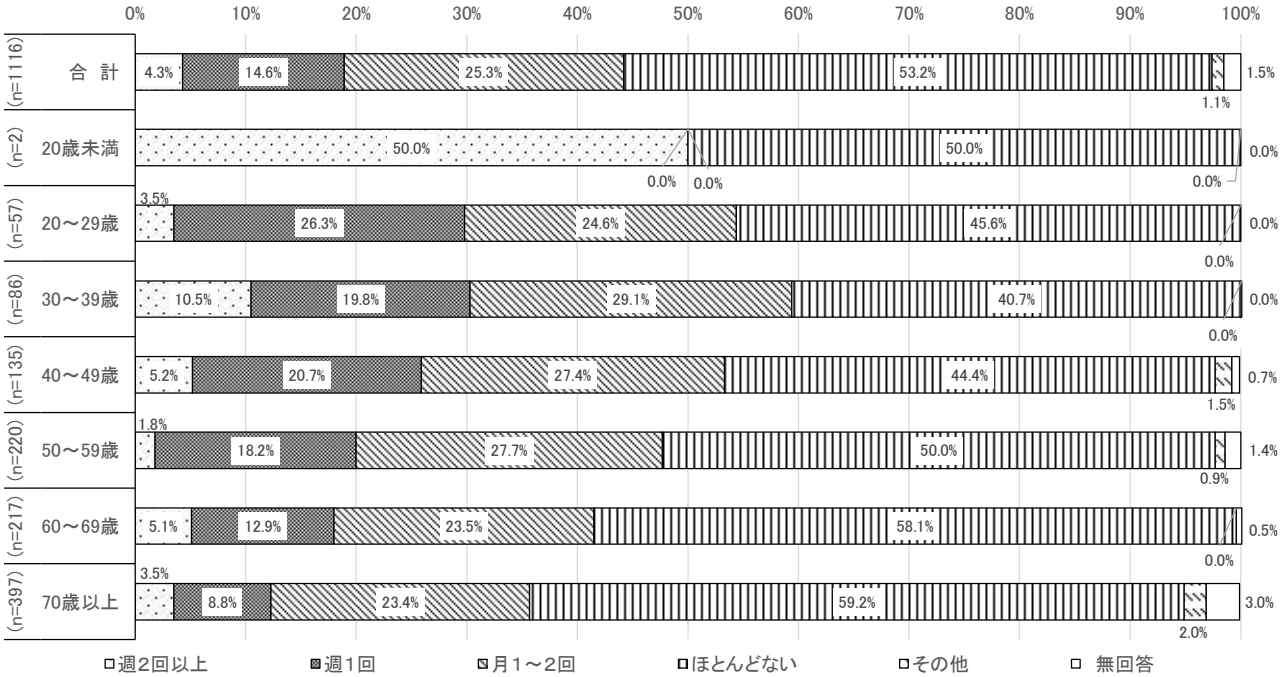
「④ほとんどない」の割合が最も高く 53.2%となっている。次いで、「③月１～２回 (25.3%)」、「②週１回（14.6%)」となっている。

図表 95 食品ロスの排出頻度



年齢別に見ると、「ほとんどない」の割合は 30 歳以降、年齢が高いほど高い傾向にあり、「70 歳以上」の割合は 59.2%と最も高い。

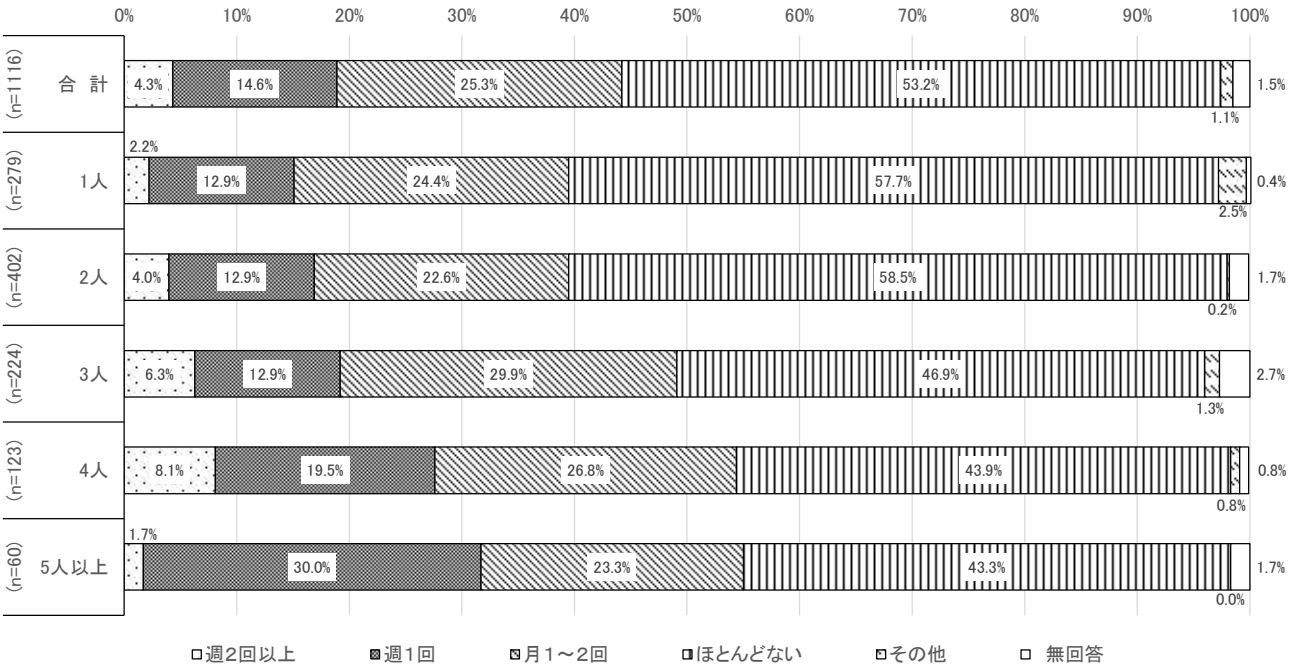
図表 96 食品ロスの排出頻度(年齢別)



	合 計	週2回以上	週1回	月1～2回	ほとんどない	その他	無回答
合 計	1116	48	163	282	594	12	17
	100.0%	4.3%	14.6%	25.3%	53.2%	1.1%	1.5%
20歳未満	2	1	0	0	1	0	0
	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	57	2	15	14	26	0	0
	100.0%	3.5%	26.3%	24.6%	45.6%	0.0%	0.0%
30～39歳	86	9	17	25	35	0	0
	100.0%	10.5%	19.8%	29.1%	40.7%	0.0%	0.0%
40～49歳	135	7	28	37	60	2	1
	100.0%	5.2%	20.7%	27.4%	44.4%	1.5%	0.7%
50～59歳	220	4	40	61	110	2	3
	100.0%	1.8%	18.2%	27.7%	50.0%	0.9%	1.4%
60～69歳	217	11	28	51	126	0	1
	100.0%	5.1%	12.9%	23.5%	58.1%	0.0%	0.5%
70歳以上	397	14	35	93	235	8	12
	100.0%	3.5%	8.8%	23.4%	59.2%	2.0%	3.0%

同居人数別に見ると、「ほとんどない」の割合は、同居人数が多くなるにつれて低くなる傾向にある。

図表 97 食品ロスの排出頻度(同居人数別)

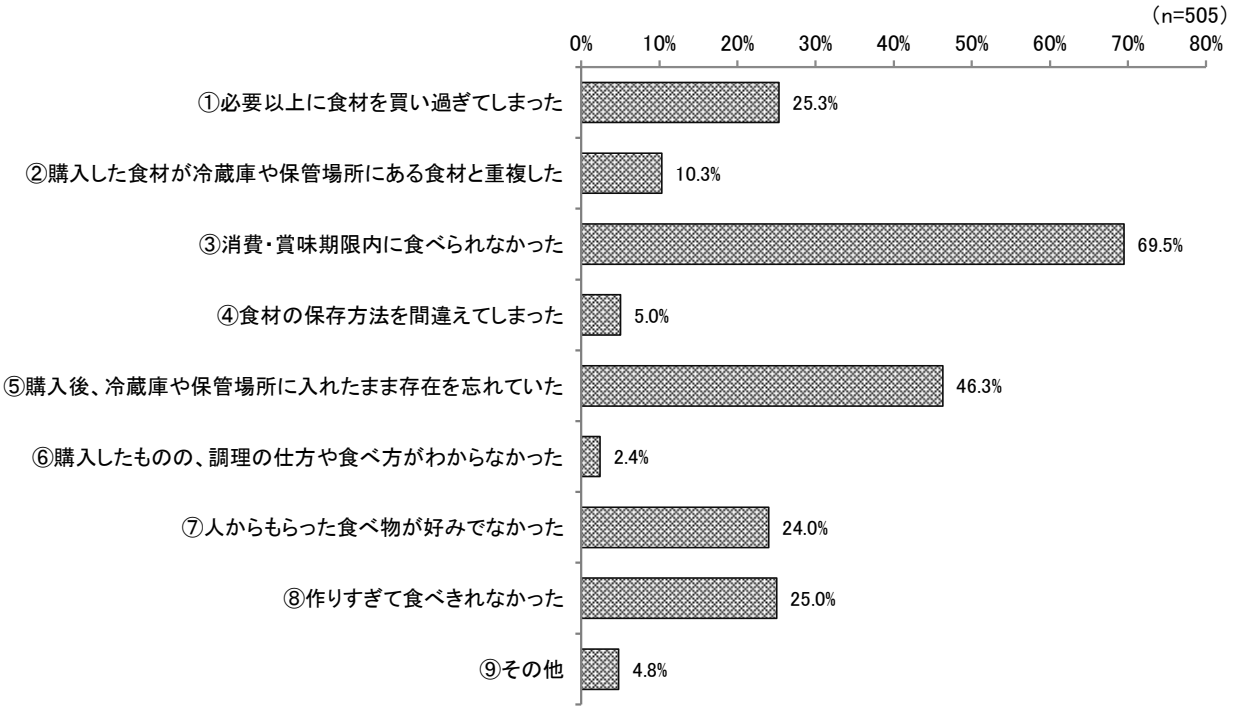


	合 計	週2回以上	週1回	月1～2回	ほとんどない	その他	無回答
合 計	1116	48	163	282	594	12	17
	100.0%	4.3%	14.6%	25.3%	53.2%	1.1%	1.5%
1人	279	6	36	68	161	7	1
	100.0%	2.2%	12.9%	24.4%	57.7%	2.5%	0.4%
2人	402	16	52	91	235	1	7
	100.0%	4.0%	12.9%	22.6%	58.5%	0.2%	1.7%
3人	224	14	29	67	105	3	6
	100.0%	6.3%	12.9%	29.9%	46.9%	1.3%	2.7%
4人	123	10	24	33	54	1	1
	100.0%	8.1%	19.5%	26.8%	43.9%	0.8%	0.8%
5人以上	60	1	18	14	26	0	1
	100.0%	1.7%	30.0%	23.3%	43.3%	0.0%	1.7%

２.４.２ 食品ロスの排出要因

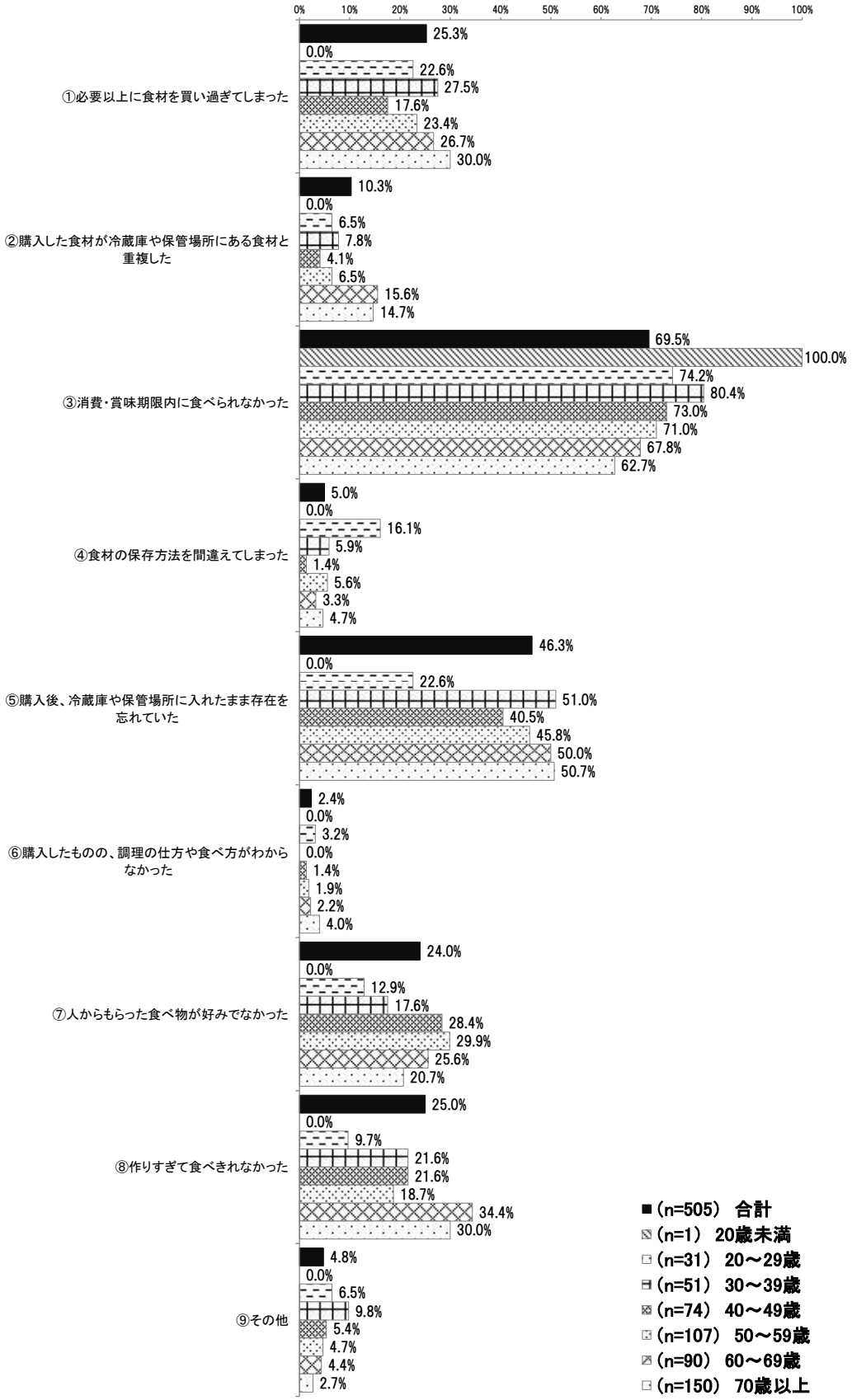
「③消費・賞味期限内に食べられなかった」の割合が最も高く 69.5%となっている。次いで、「⑤購入後、冷蔵庫や保管場所に入れたまま存在を忘れていた（46.3%）」、「①必要以上に食材を買い過ぎてしまった（25.3%）」となっている。

図表 98 食品ロスの排出要因 ※該当するものすべてを回答



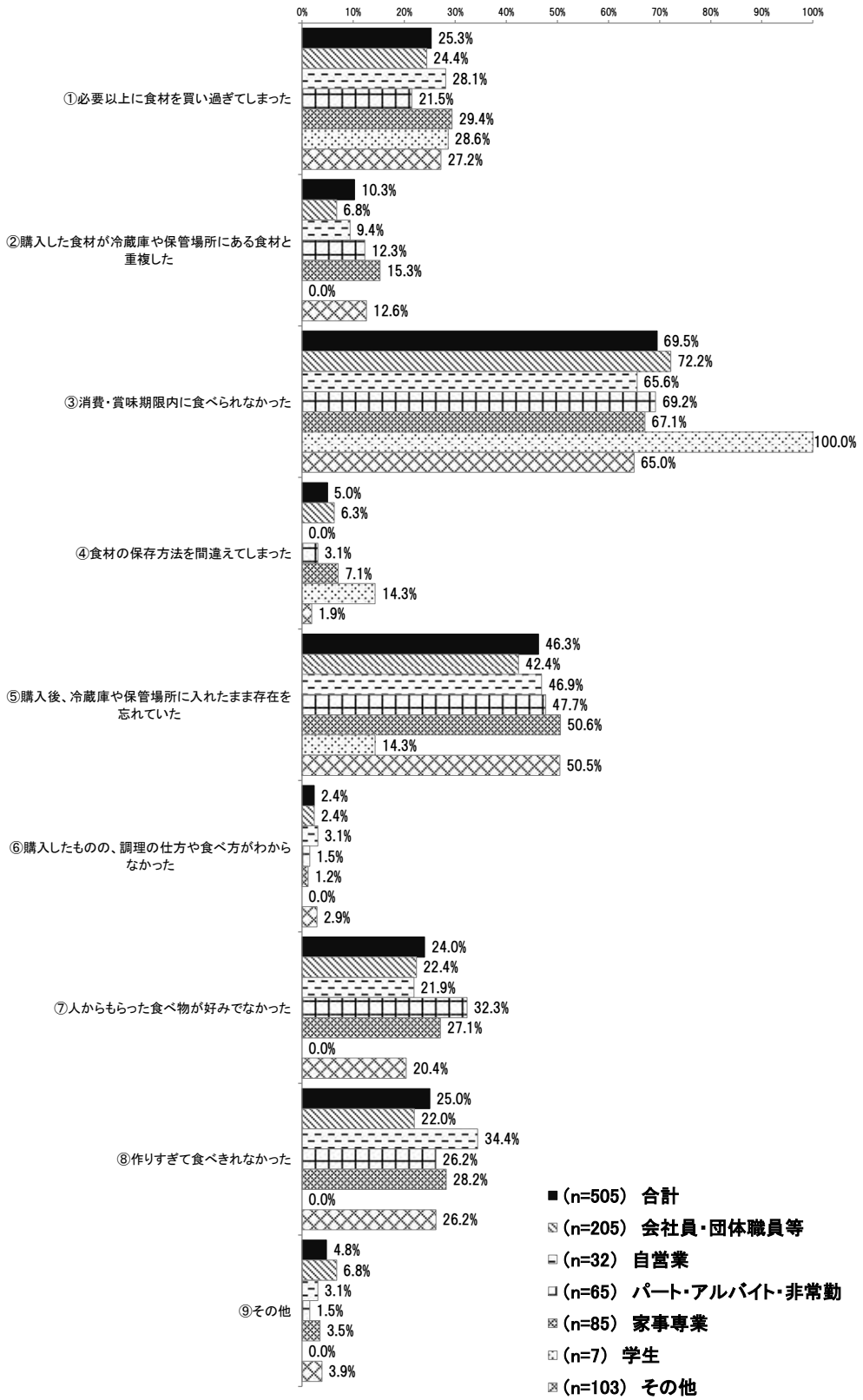
年齢別に見ると、「①必要以上に食材を買い過ぎてしまった」、「⑤購入後、冷蔵庫や保管場所に入れたまま存在を忘れていた」の割合は、年齢が高いほど高い傾向にある。一方で、「③消費・賞味期限内に食べられなかった」の割合は、年齢が高いほど低い傾向にある。

図表 99 食品ロスの排出要因(年齢別)



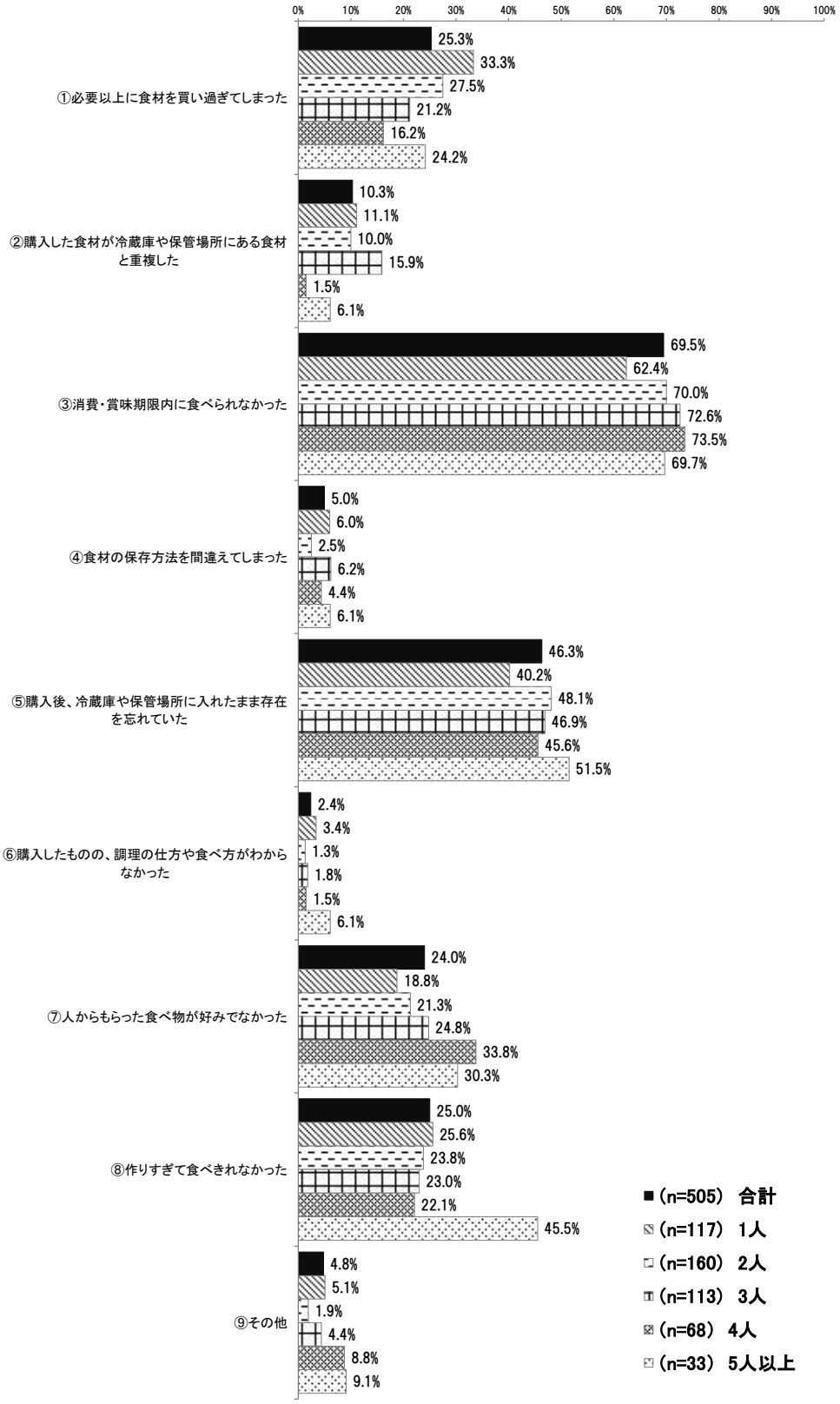
職業別に見ると、「パート・アルバイト・非常勤」における「⑦人からもらった食べ物が好みでなかった（32.3%）」、「自営業」における「⑧作りすぎて食べきれなかった（34.4%）」等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

図表 100 食品ロスの排出要因(職業別)



同居人数別に見ると、「1 人」における「①必要以上に食材を買い過ぎてしまった（33.3%）」、「5 人以上」における「⑧作りすぎて食べきれなかった（45.5%）」等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

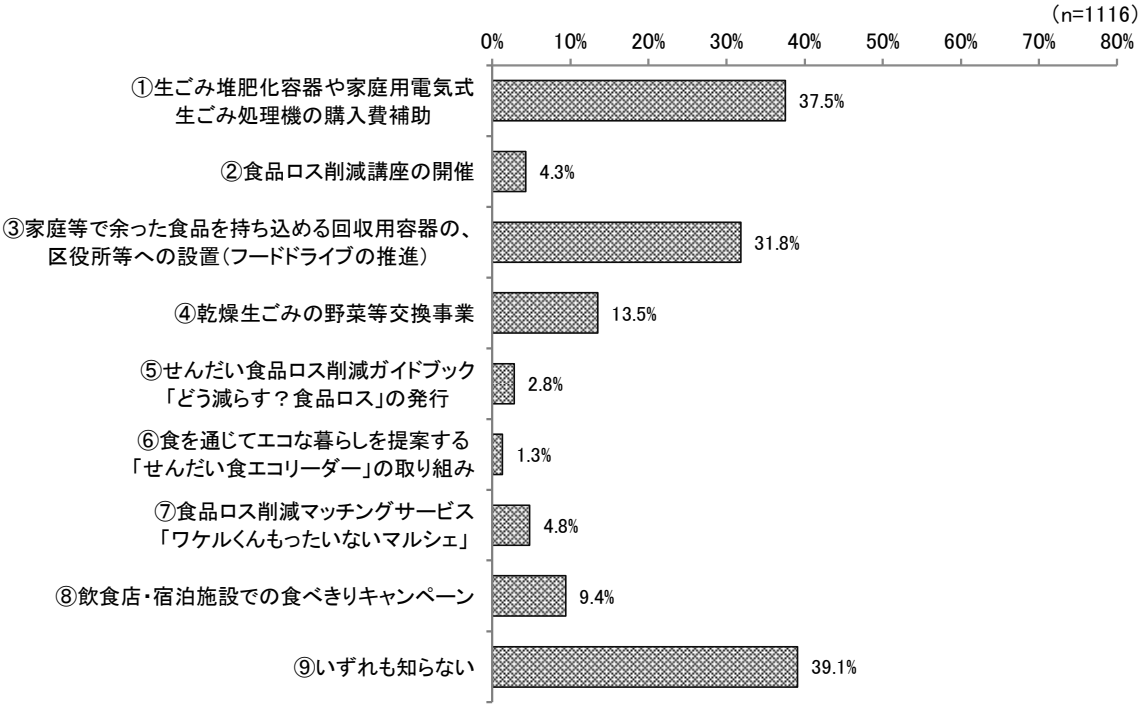
図表 101 食品ロスの排出要因(同居人数別)



2.4.3 市の食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの認知度

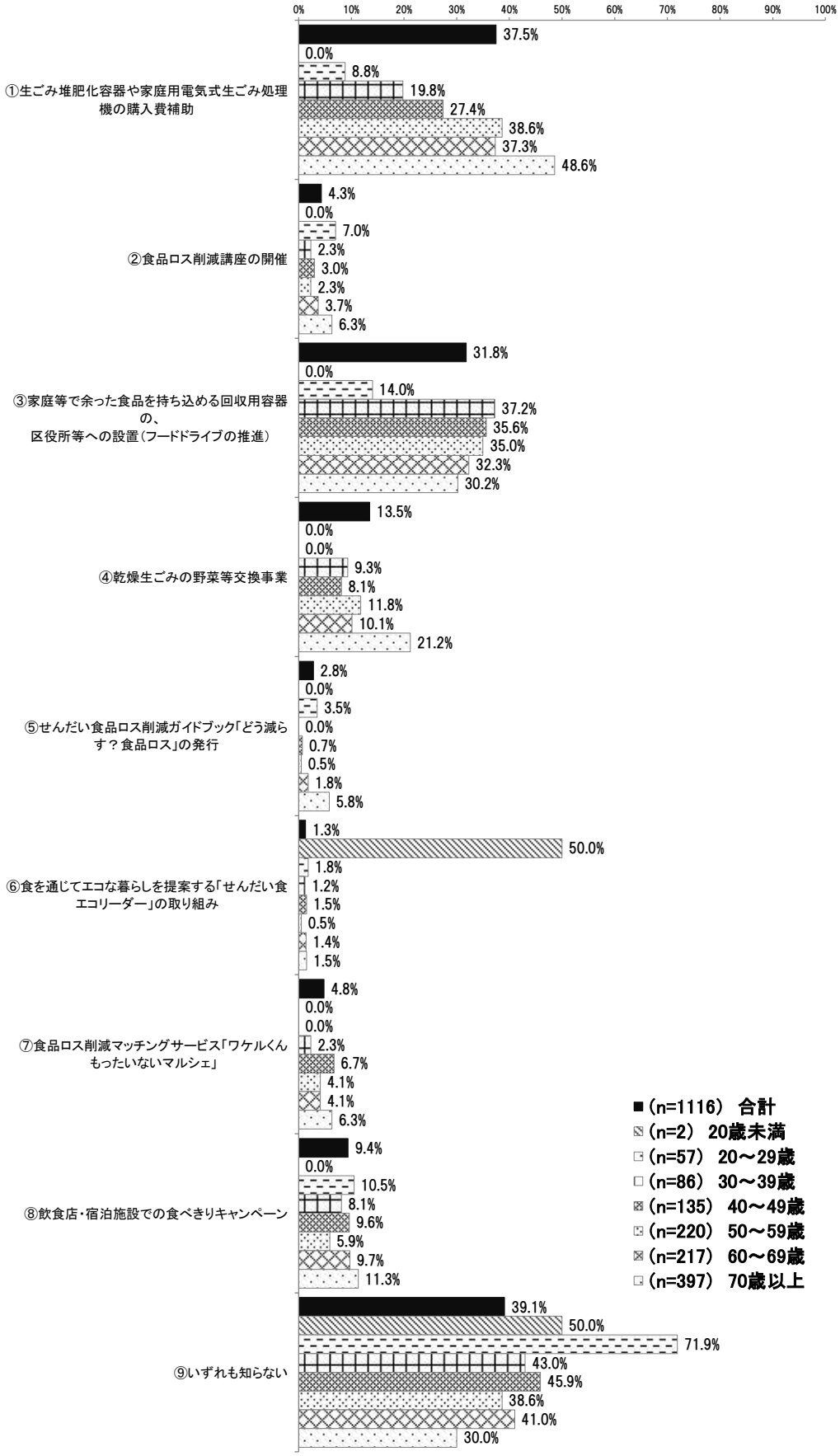
「⑨いずれも知らない」の割合が最も高く 39.1%となっている。次いで、「①生ごみ堆肥化容器や家庭用電気式生ごみ処理機の購入費補助（37.5%）」、「③家庭等で余った食品を持ち込める回収用容器の、区役所等への設置（フードドライブの推進）（31.8%）」となっている。

図表 102 市の食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの認知度 ※該当するものすべてを回答



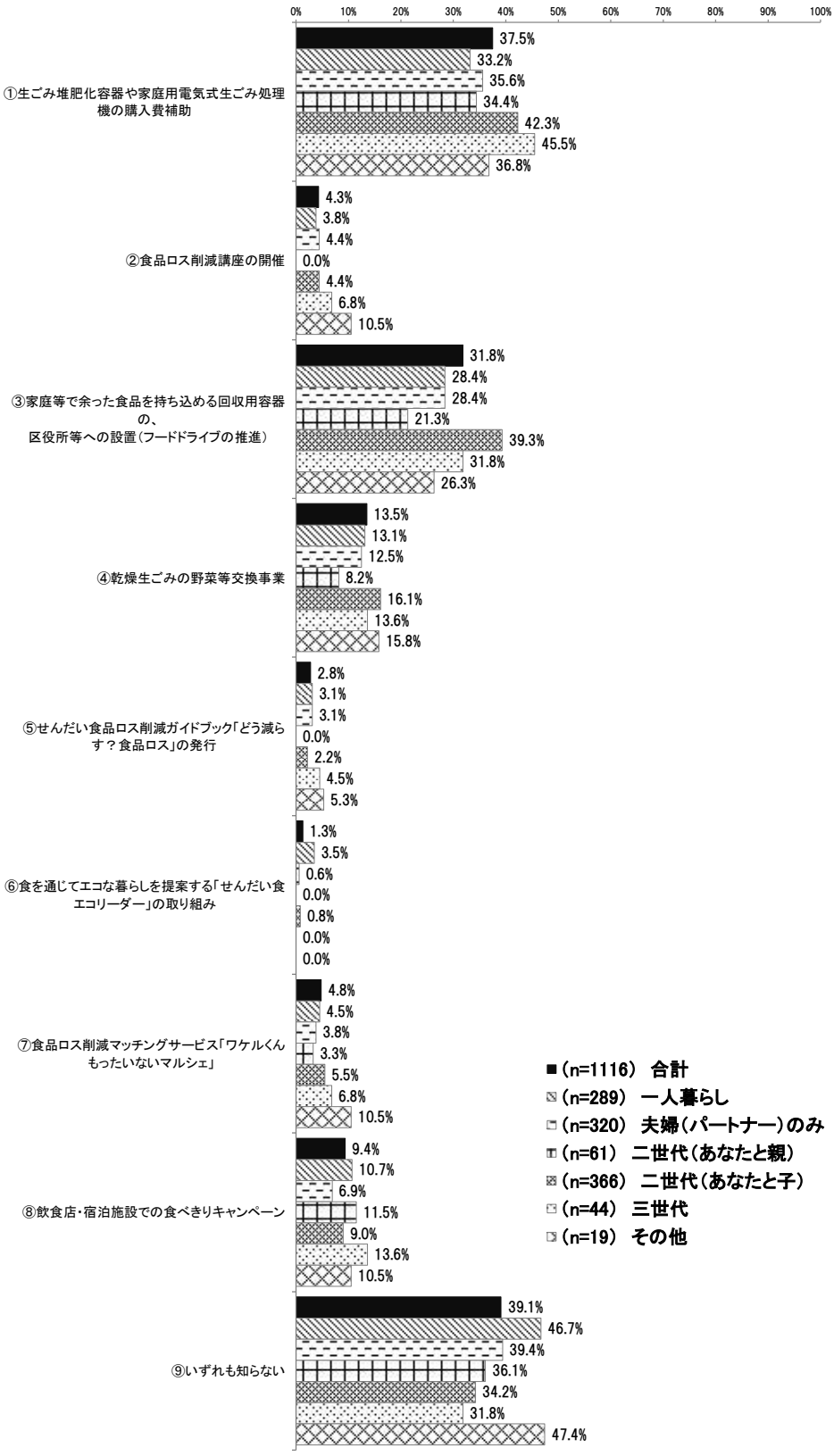
年齢別に見ると、「①生ごみ堆肥化容器や家庭用電気式生ごみ処理機の購入費補助」の割合は、年齢が高いほど高い傾向にある。「③家庭等で余った食品を持ち込める回収用容器の、区役所等への設置」の割合は、30 代以降は年齢が高いほど低い傾向にある。

図表 103 市の食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの認知度（年齢別）



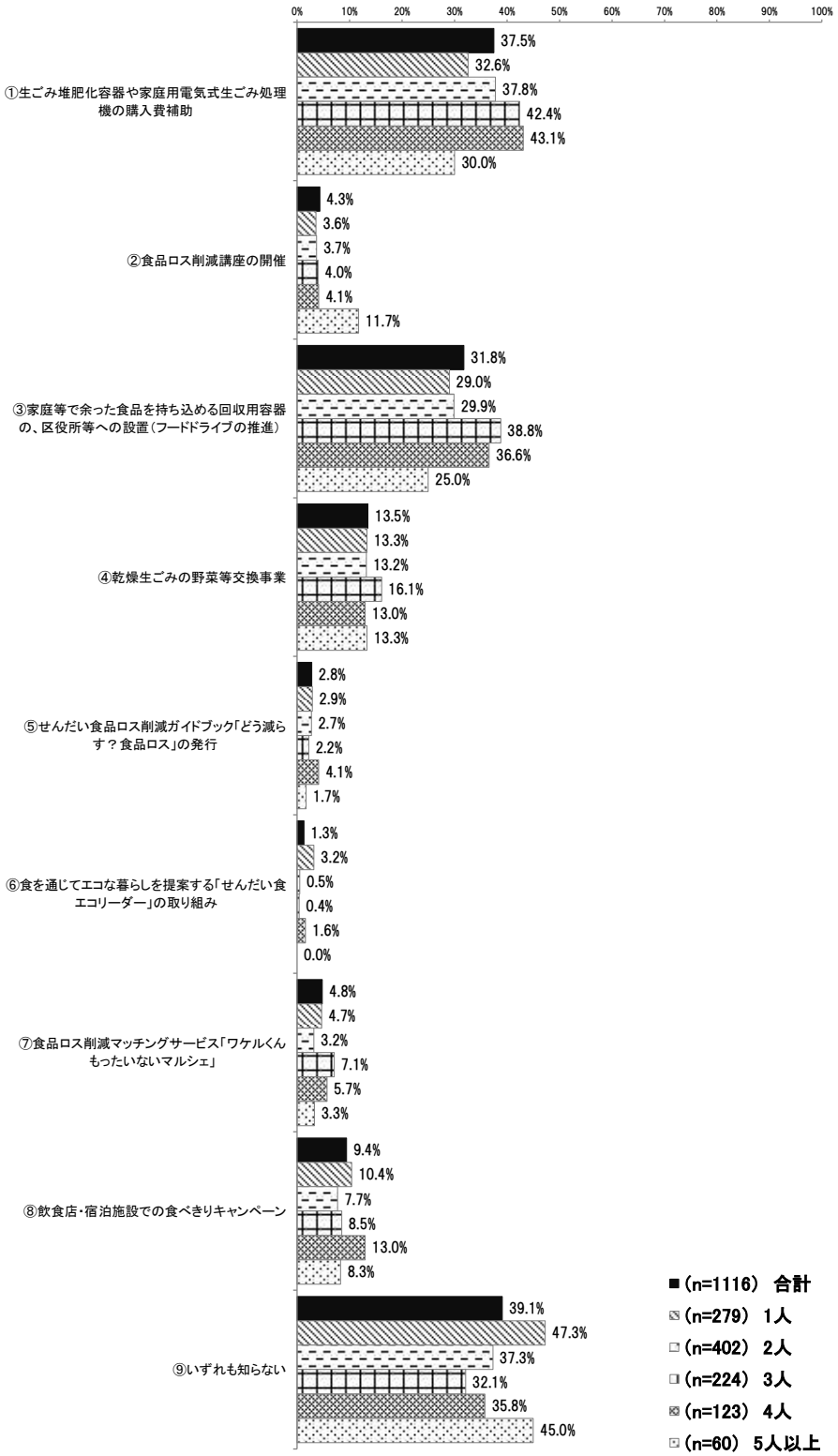
世帯構成別に見ると、「一人暮らし」における「⑨いずれも知らない（46.7%）」等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

図表 104 市の食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの認知度（世帯構成別）



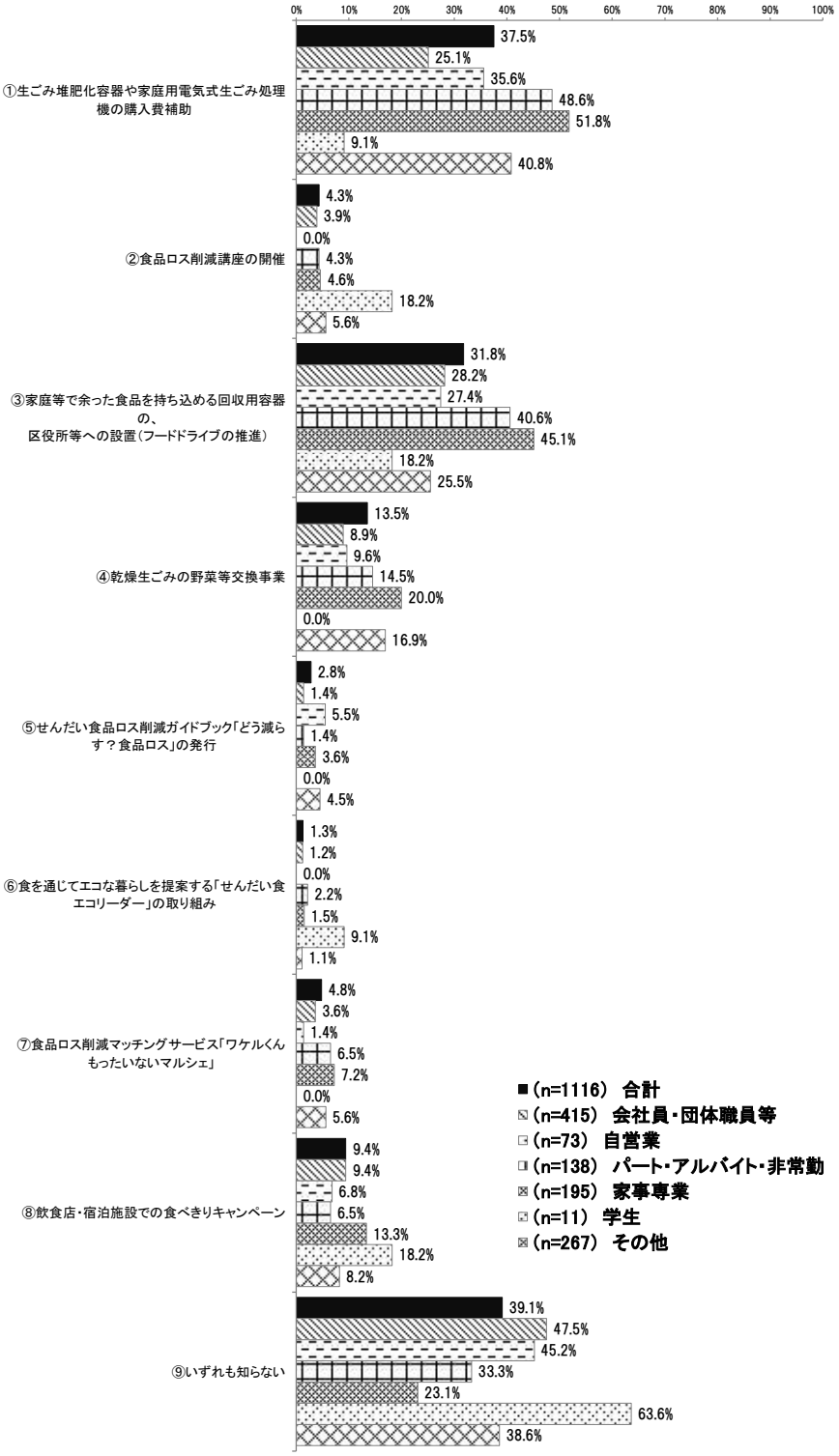
同居人数別に見ると、「⑨いずれも知らない」の割合は、「1 人」が 47.3%と最も高く、「1 人」から「3 人」までは減少傾向にあるが、3 人以上は増加傾向にある。「①生ごみ堆肥化容器や家庭用電気式生ごみ処理機の購入費補助」の割合は、1～4 人までは、同居人数が多いほど高くなる傾向がある。

図表 105 市の食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの認知度(同居人数別)



職業別に見ると、「パート・アルバイト・非常勤」及び「家事専業」における「①生ごみ堆肥化容器や家庭用電気式生ごみ処理機の購入費補助」、「③家庭等で余った食品を持ち込める回収用容器の、区役所等への設置（フードドライブの推進)」、「会社員・団体職員等」、「自営業」、「学生」における「⑨いずれも知らない」等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

図表 106 市の食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの認知度(職業別)

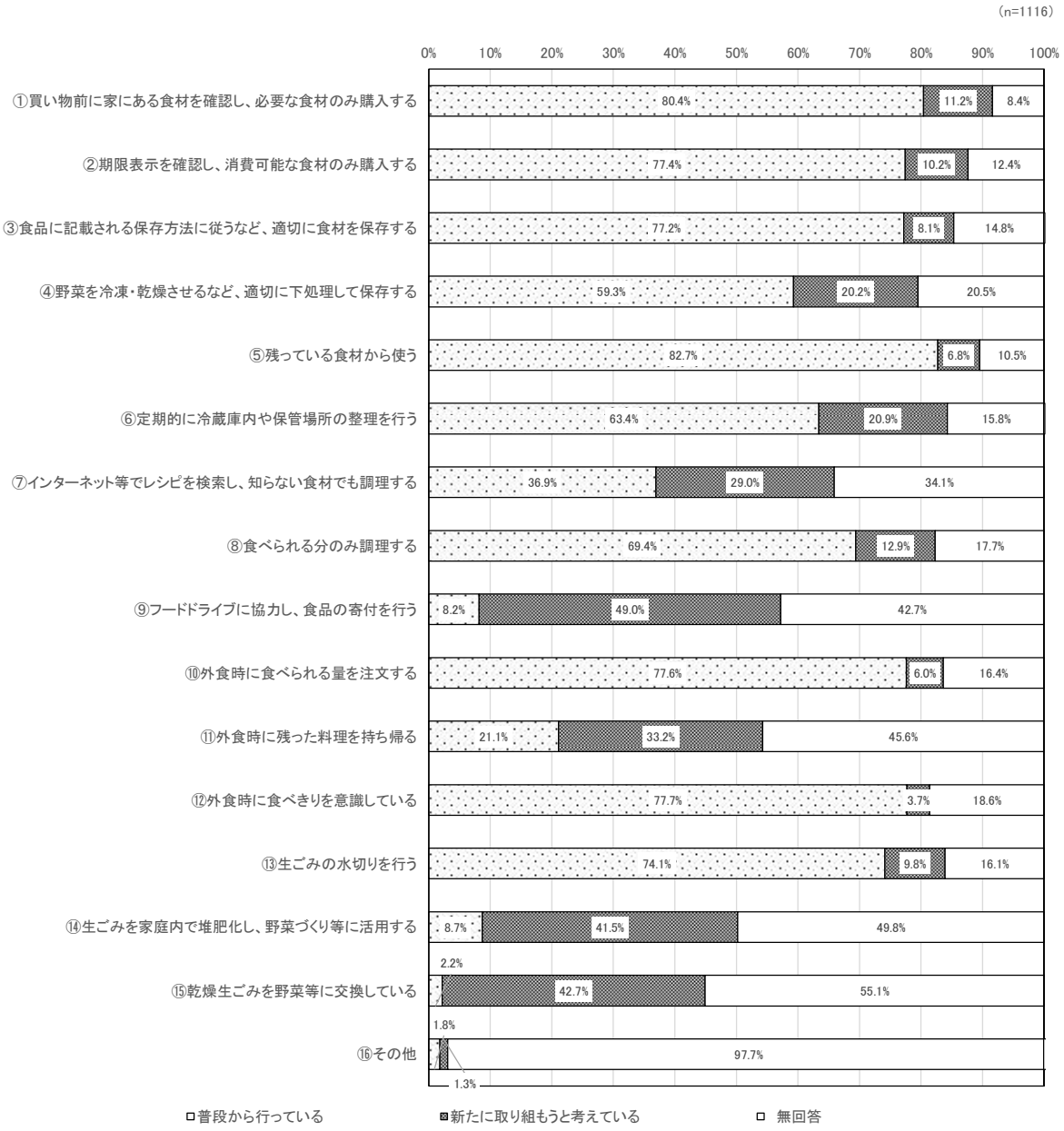


2.4.4 食品ロス・生ごみ削減のための現在の取り組み状況及び新たに取り組もうと考えていること

「普段から行っている」割合が高い取り組みは、「⑤残っている食材から使う（82.7%）」、「①買い物前に家にある食材を確認し、必要な食材のみ購入する（80.4%）」、「⑫外食時に食べきりを意識している（77.7%）」となっている。

「新たに取り組もうと考えている」割合が高い取り組みは、「⑨フードドライブに協力し、食品の寄付を行う（49.0%）」、「⑮乾燥生ごみを野菜等に交換している（42.7%）」、「⑭生ごみを家庭内で堆肥化し、野菜づくり等に活用する（41.5%）」となっている。

図表 107 食品ロス・生ごみ削減のための現在の取り組み状況及び新たに取り組もうと考えていること

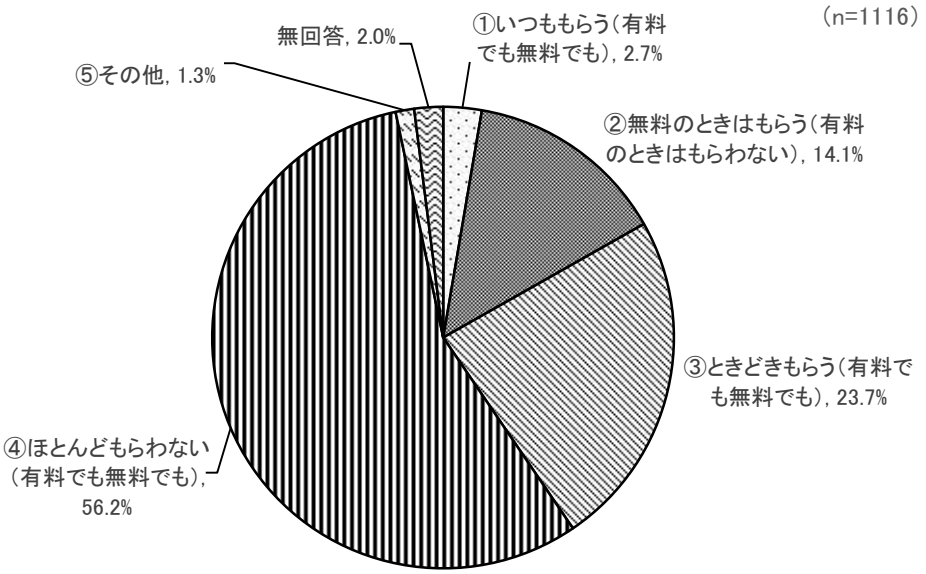


２.５ プラスチックについて

２.５.１ レジ袋の受取状況

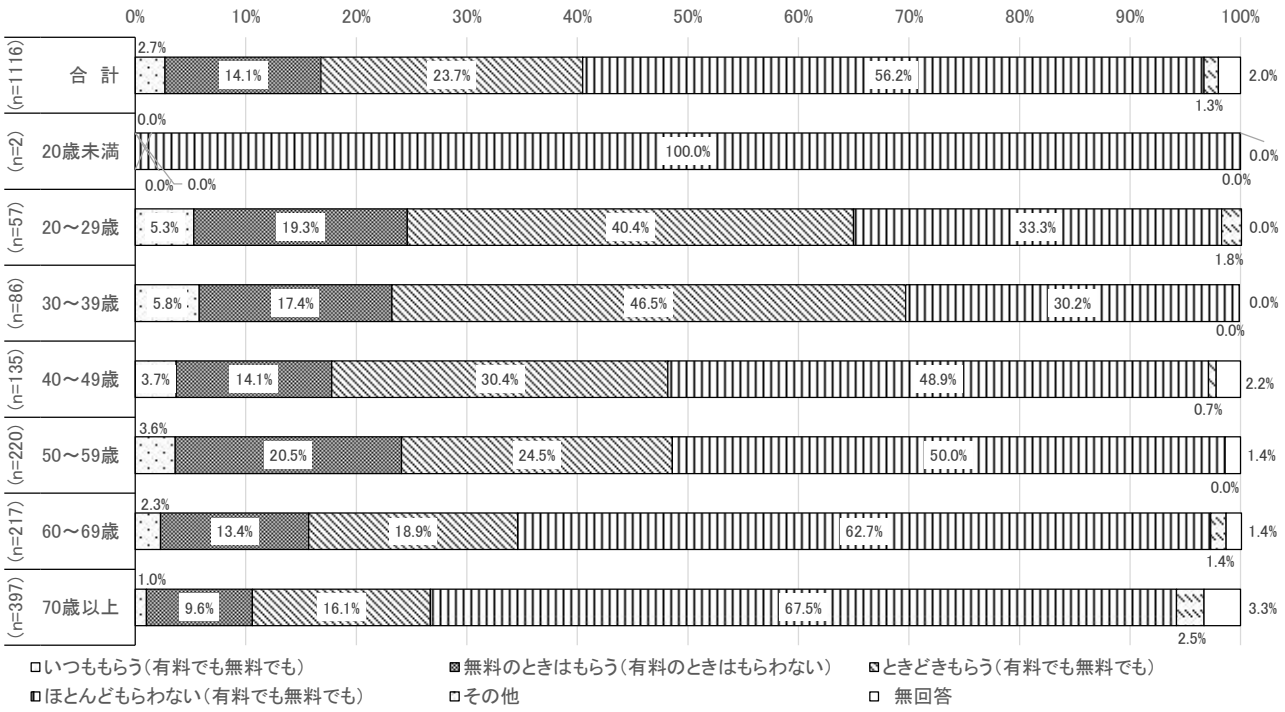
「④ほとんどもらわない（有料でも無料でも）」の割合が最も高く 56.2%となっている。次いで、「③ときどきもらう（有料でも無料でも）（23.7%）」、「②無料のときはもらう（有料のときはもらわない）（14.1%）」となっている。

図表 108 レジ袋の受け取り状況



年齢別に見ると、「ほとんどもらわない（有料でも無料でも）」の割合は、30 歳以降、年齢が高いほど高い傾向にある。

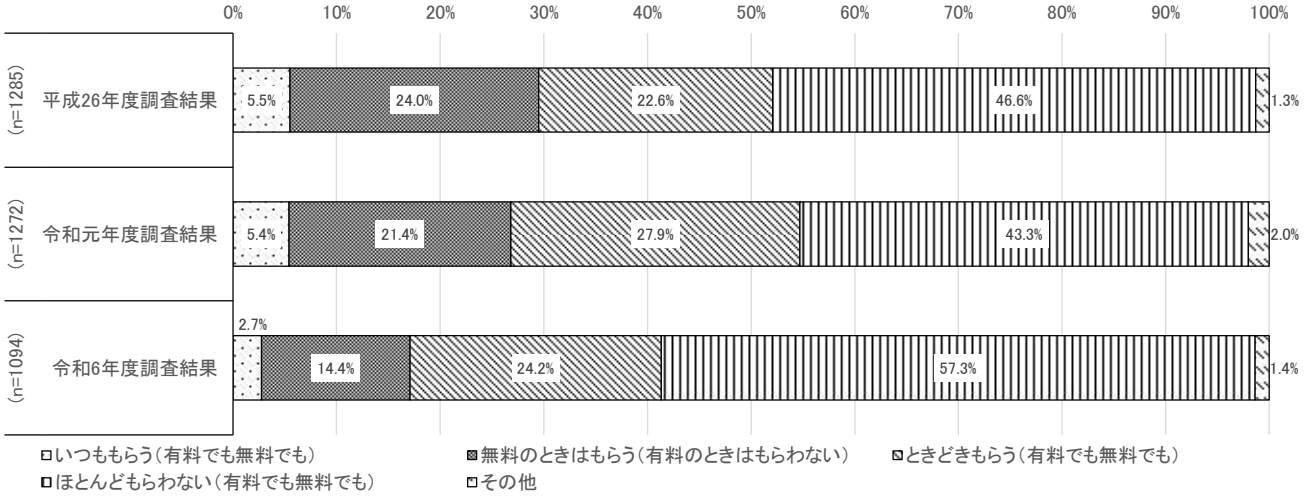
図表 109 レジ袋の受け取り状況（年齢別）



	合 計	いつももらう	無料のときはもらう	ときどきもらう	ほとんどもらわない	その他	無回答
合 計	1116	30	157	265	627	15	22
	100.0%	2.7%	14.1%	23.7%	56.2%	1.3%	2.0%
20歳未満	2	0	0	0	2	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	57	3	11	23	19	1	0
	100.0%	5.3%	19.3%	40.4%	33.3%	1.8%	0.0%
30～39歳	86	5	15	40	26	0	0
	100.0%	5.8%	17.4%	46.5%	30.2%	0.0%	0.0%
40～49歳	135	5	19	41	66	1	3
	100.0%	3.7%	14.1%	30.4%	48.9%	0.7%	2.2%
50～59歳	220	8	45	54	110	0	3
	100.0%	3.6%	20.5%	24.5%	50.0%	0.0%	1.4%
60～69歳	217	5	29	41	136	3	3
	100.0%	2.3%	13.4%	18.9%	62.7%	1.4%	1.4%
70歳以上	397	4	38	64	268	10	13
	100.0%	1.0%	9.6%	16.1%	67.5%	2.5%	3.3%

「ほとんどもらわない（有料でも無料でも）」の割合が、令和 6 年度調査（57.3%）では平成 26 年度調査（46.6%）及び令和元年度調査（43.3%）よりも高くなっている。2020 年 7 月に開始したプラスチック製買物袋有料化等の影響により、レジ袋を辞退する人の割合が増加したことがうかがえる。

図表 110　平成 26 年度及び令和元年度調査結果との比較



※無回答を除いて集計

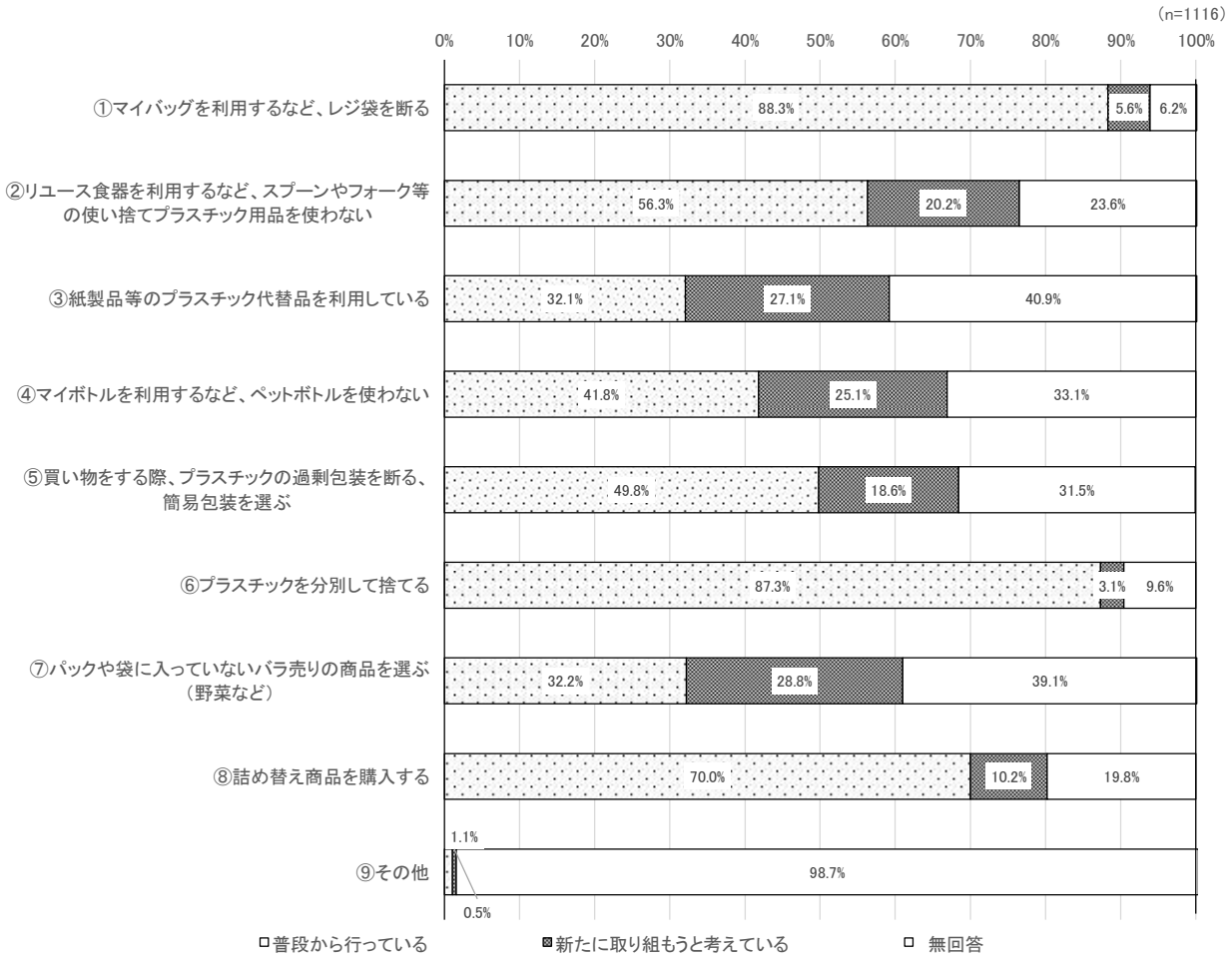
2.5.2 プラスチックごみ削減やリサイクルのための現在の取り組み状況及び新たに取り組もうと考えていること

「普段から取り組んでいる」割合が高い取り組みは、「①マイバッグを利用するなど、レジ袋を断る（88.3%）」、「⑥プラスチックを分別して捨てる（87.3%）」、「⑧詰め替え商品を購入する（70.0%）」となっている。

「新たに取り組もうと考えている」割合が高い取り組みは、「⑦パックや袋に入っていないバラ売りの商品を選ぶ（野菜など）（28.8%）」、「③紙製品等のプラスチック代替品を利用している（27.1%）」、「④マイボトルを利用するなど、ペットボトルを使わない（25.1%）」となっている。

図表 111 プラスチックごみ削減やリサイクルのための現在の取り組み状況及び新たに取り組もうと考えていること

※該当するものすべてを回答

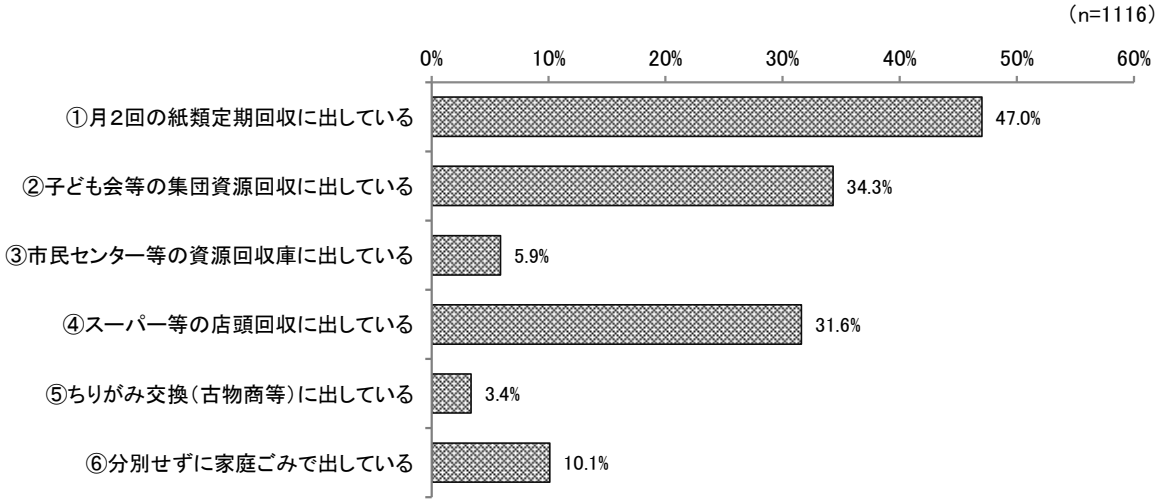


２.６ 紙類について

２.６.１ 紙類の出し方

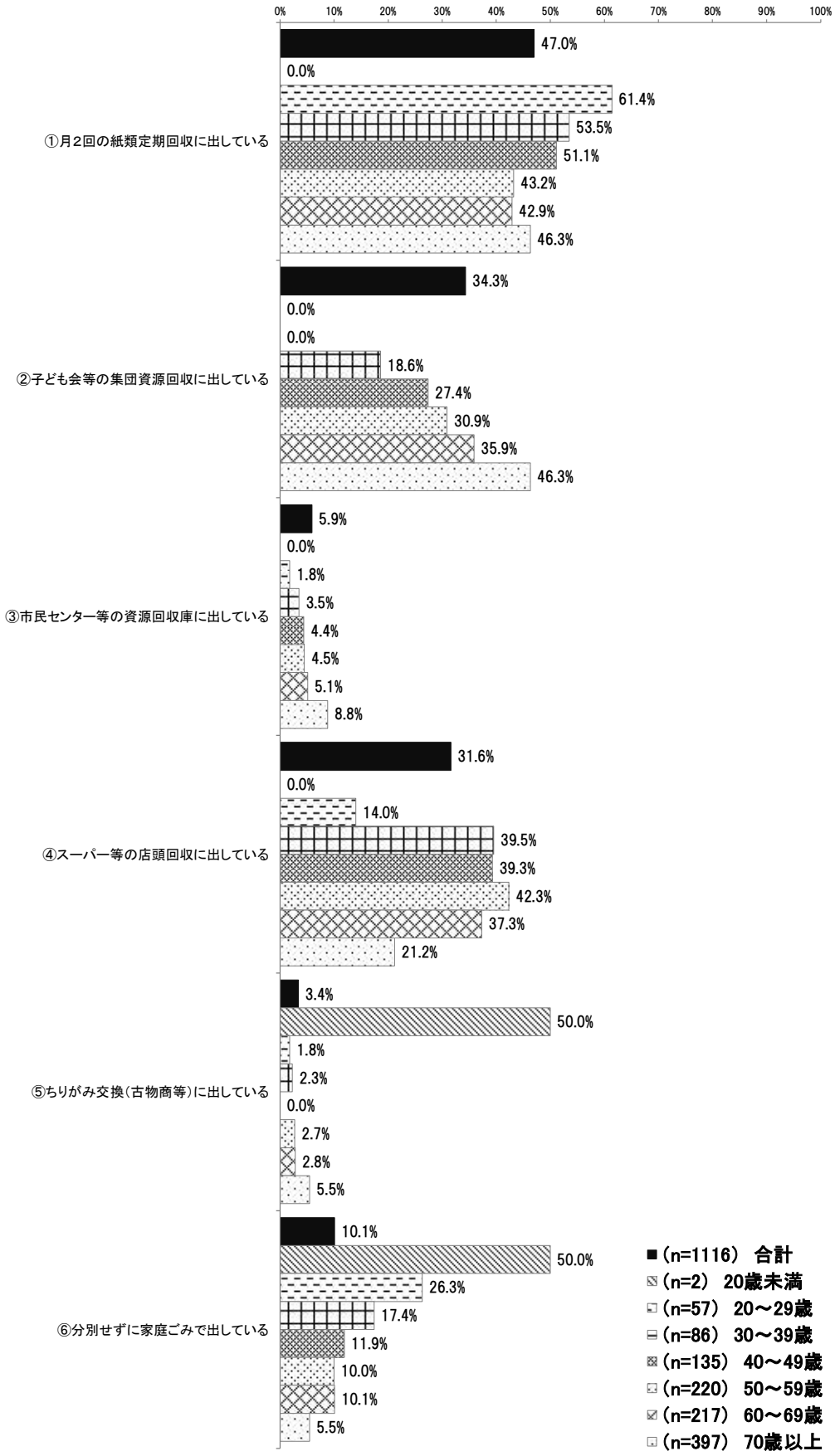
「①月２回の紙類定期回収に出している」の割合が最も高く 47.0%となっている。次いで、「②子ども会等の集団資源回収に出している（34.3%）」、「④スーパー等の店頭回収に出している（31.6%）」となっている。

図表 112 紙類の出し方 ※該当するものすべてを回答



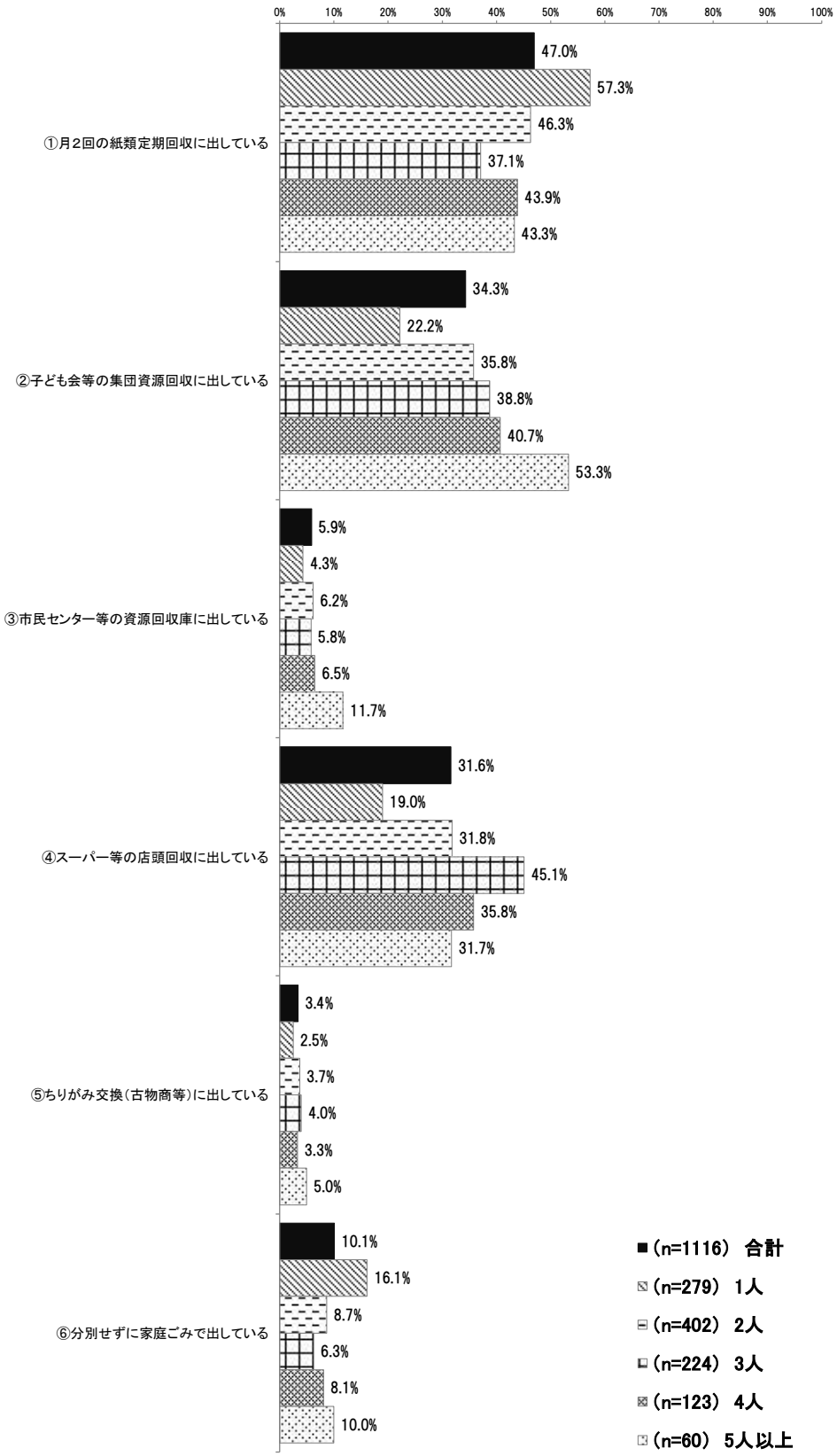
年齢別に見ると、「①月 2 回の紙類定期回収に出している」、「⑥分別せずに家庭ごみで出している」の割合は年齢が高いほど低い傾向にある。一方で、「②子ども会等の集団資源回収に出している」の割合は年齢が高いほど高い傾向にある。

図表 113 紙類の出し方(年齢別)



同居人数別に見ると、「②子ども会等の集団資源回収に出している」の割合は、同居人数が多いほど高い傾向にある。

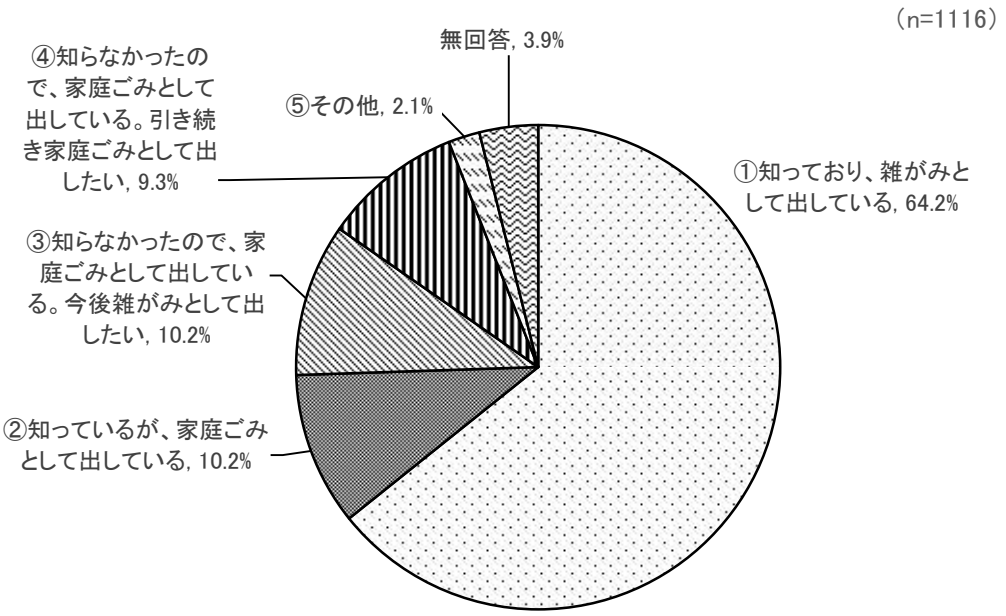
図表 114 紙類の出し方(同居人数別)



２.６.２ 雑がみ回収の認知度と排出行動

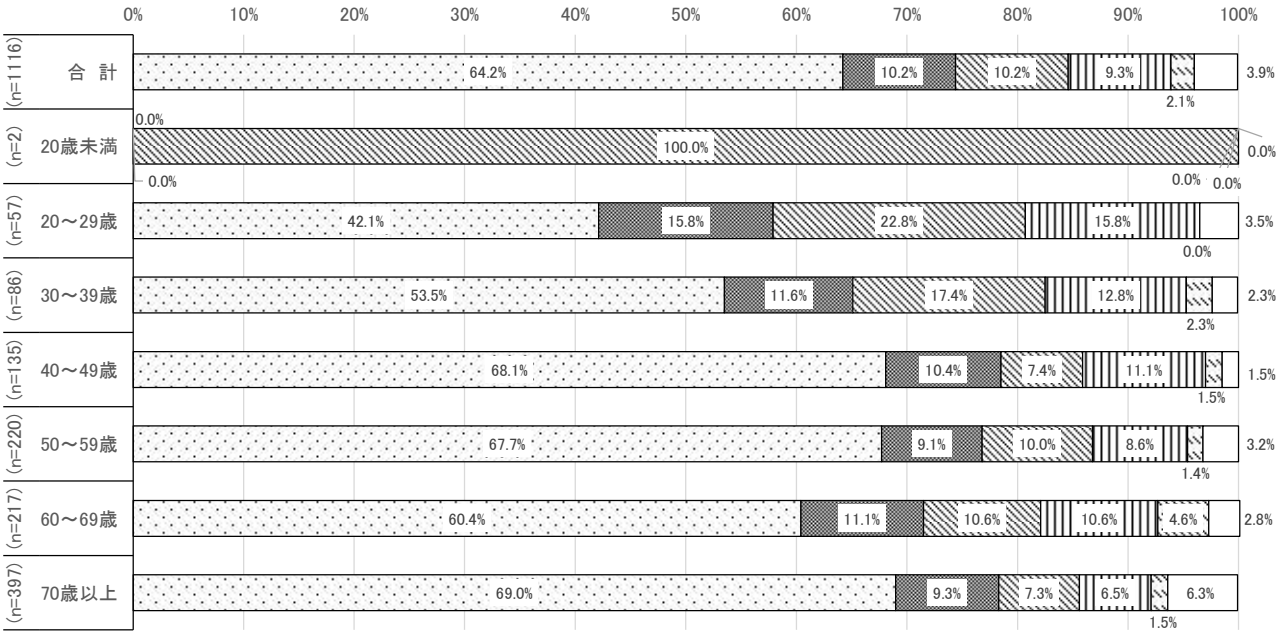
「①知っており、雑がみとして出している」の割合が最も高く 64.2%となっている。次いで、「②知っているが、家庭ごみとして出している」、「③知らなかったので、家庭ごみとして出している。今後雑がみとして出したい」がいずれも 10.2%となっている。

図表 115 雑がみ回収の認知度と排出行動



年齢別に見ると、「知らなかったので、家庭ごみとして出している。引き続き家庭ごみとして出したい」の割合は、年齢が高いほど低い傾向にある。

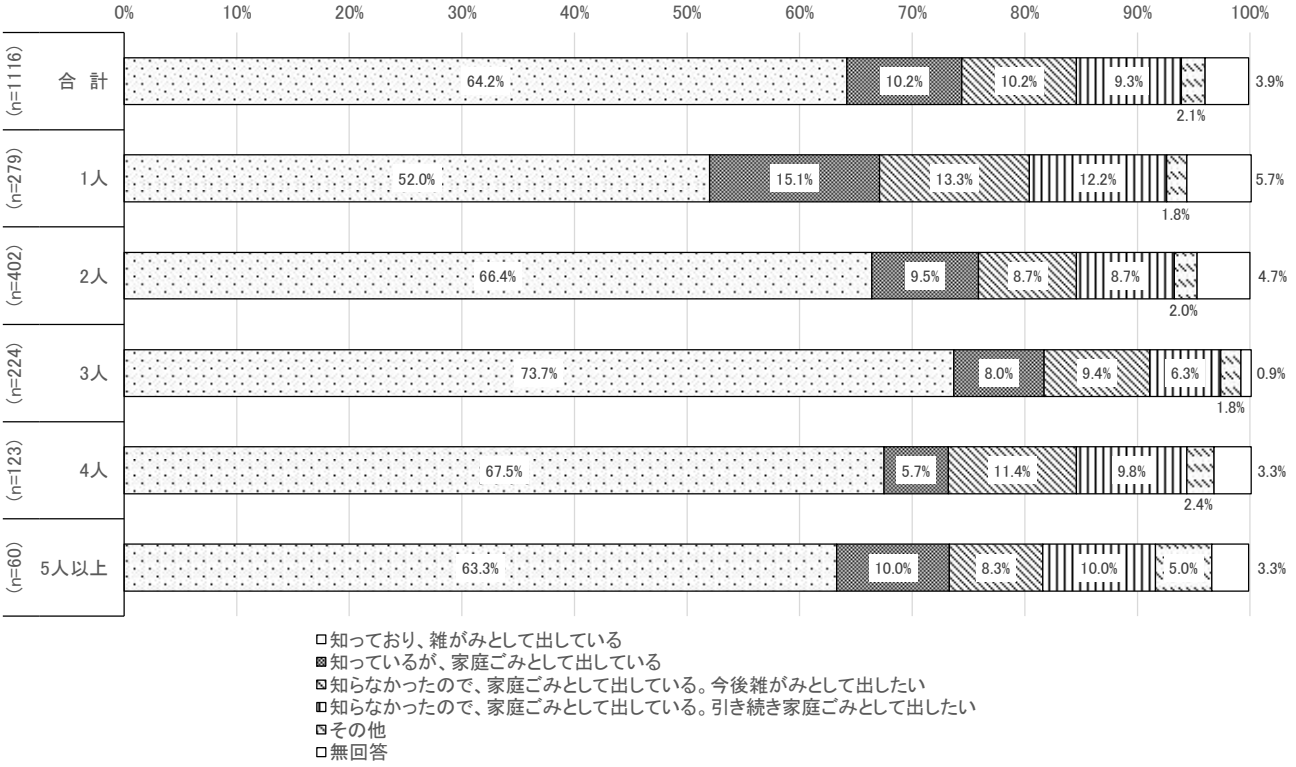
図表 116 雑がみ回収の認知度と排出行動(年齢別)



	合 計	知っており、雑がみとして出している	知っているが、家庭ごみとして出している	知らなかったので、家庭ごみとして出している。今後雑がみとして出したい	知らなかったので、家庭ごみとして出している。引き続き家庭ごみとして出したい	その他	無回答
合 計	1116	717	114	114	104	23	44
	100.0%	64.2%	10.2%	10.2%	9.3%	2.1%	3.9%
20歳未満	2	0	0	2	0	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	57	24	9	13	9	0	2
	100.0%	42.1%	15.8%	22.8%	15.8%	0.0%	3.5%
30～39歳	86	46	10	15	11	2	2
	100.0%	53.5%	11.6%	17.4%	12.8%	2.3%	2.3%
40～49歳	135	92	14	10	15	2	2
	100.0%	68.1%	10.4%	7.4%	11.1%	1.5%	1.5%
50～59歳	220	149	20	22	19	3	7
	100.0%	67.7%	9.1%	10.0%	8.6%	1.4%	3.2%
60～69歳	217	131	24	23	23	10	6
	100.0%	60.4%	11.1%	10.6%	10.6%	4.6%	2.8%
70歳以上	397	274	37	29	26	6	25
	100.0%	69.0%	9.3%	7.3%	6.5%	1.5%	6.3%

同居人数別に見ると、「1 人」における「知っているが、家庭ごみとして出している（15.1%）」、「3 人」における「知っており、雑がみとして出している（73.7%）」等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

図表 117 雑がみ回収の認知度と排出行動（同居人数別）

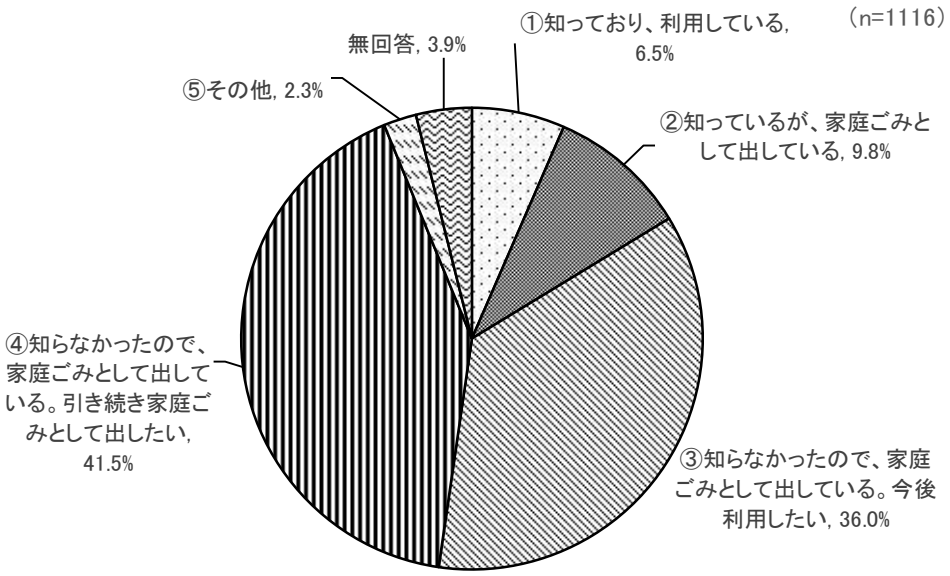


	合 計	知っており、雑がみとして出している	知っているが、家庭ごみとして出している	知らなかったので、家庭ごみとして出している。今後雑がみとして出したい	知らなかったので、家庭ごみとして出している。引き続き家庭ごみとして出したい	その他	無回答
合 計	1116	717	114	114	104	23	44
	100.0%	64.2%	10.2%	10.2%	9.3%	2.1%	3.9%
1人	279	145	42	37	34	5	16
	100.0%	52.0%	15.1%	13.3%	12.2%	1.8%	5.7%
2人	402	267	38	35	35	8	19
	100.0%	66.4%	9.5%	8.7%	8.7%	2.0%	4.7%
3人	224	165	18	21	14	4	2
	100.0%	73.7%	8.0%	9.4%	6.3%	1.8%	0.9%
4人	123	83	7	14	12	3	4
	100.0%	67.5%	5.7%	11.4%	9.8%	2.4%	3.3%
5人以上	60	38	6	5	6	3	2
	100.0%	63.3%	10.0%	8.3%	10.0%	5.0%	3.3%

2.6.3 コーティングされた紙容器の資源回収庫による回収の認知度

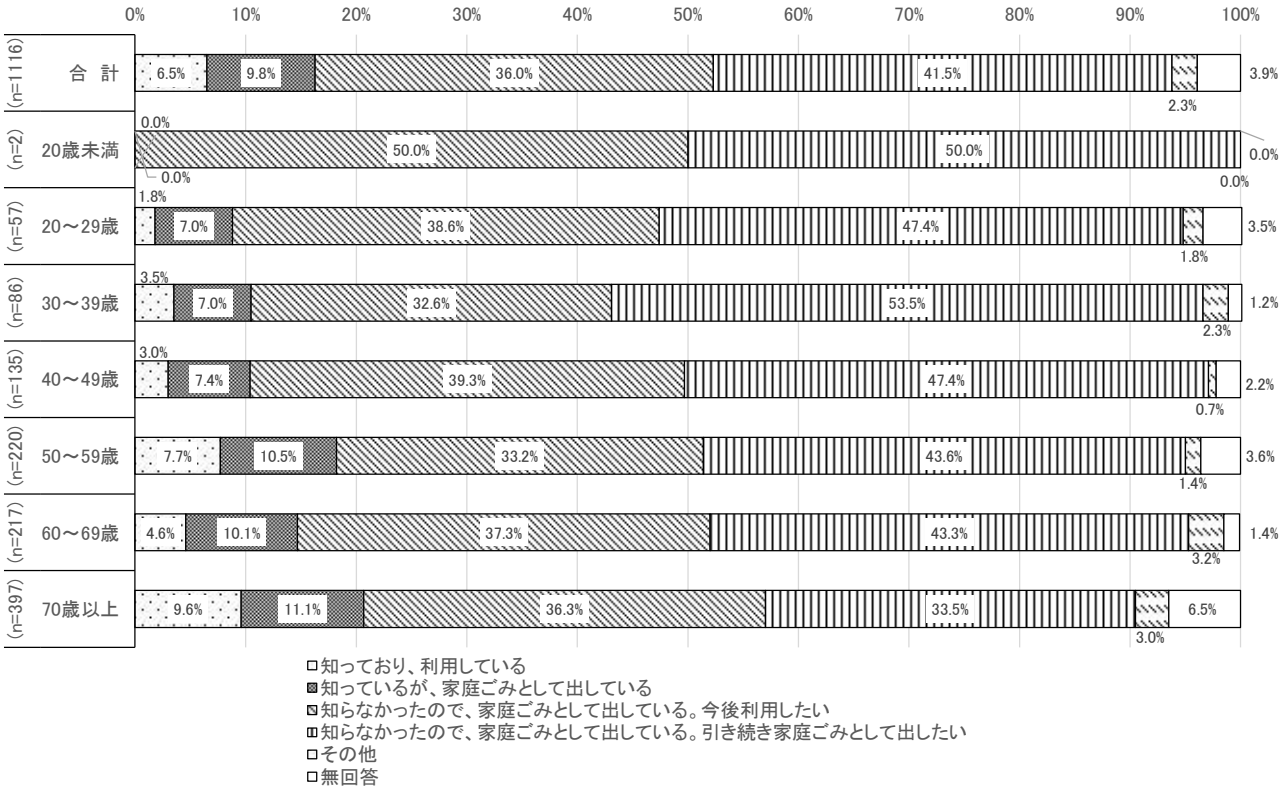
「④知らなかったので、家庭ごみとして出している。引き続き家庭ごみとして出したい」の割合が最も高く 41.5%となっている。次いで、「③知らなかったので、家庭ごみとして出している。今後利用したい（36.0%）」、「②知っているが、家庭ごみとして出している（9.8%）」となっている。

図表 118 コーティングされた紙容器の資源回収庫による回収の認知度



年齢別に見ると、「知らなかったので、家庭ごみとして出している。引き続き家庭ごみとして出したい」の割合は、年齢が高いほど低い傾向にある。

図表 119 コーティングされた紙容器の資源回収庫による回収の認知度（年齢別）



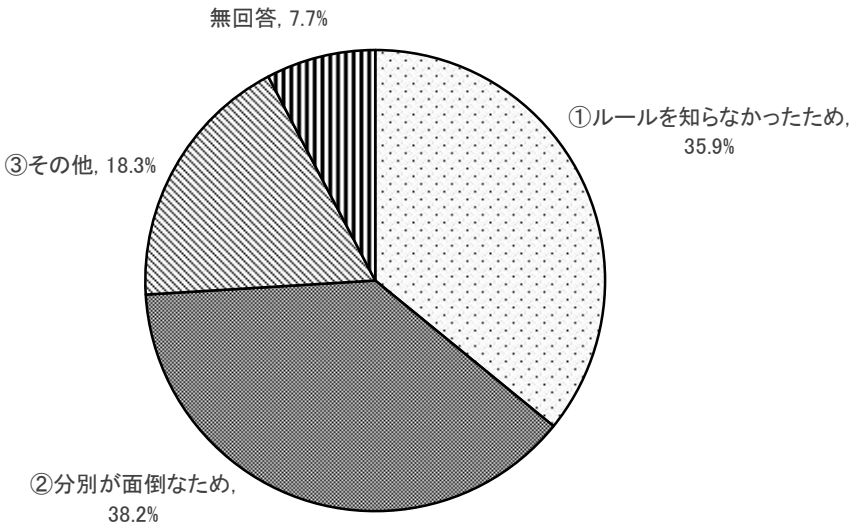
	合 計	知っており、利用している	知っているが、家庭ごみとして出している	知らなかったので、家庭ごみとして出している。今後利用したい	知らなかったので、家庭ごみとして出している。引き続き家庭ごみとして出したい	その他	無回答
合 計	1116	73	109	402	463	26	43
	100.0%	6.5%	9.8%	36.0%	41.5%	2.3%	3.9%
20歳未満	2	0	0	1	1	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	57	1	4	22	27	1	2
	100.0%	1.8%	7.0%	38.6%	47.4%	1.8%	3.5%
30～39歳	86	3	6	28	46	2	1
	100.0%	3.5%	7.0%	32.6%	53.5%	2.3%	1.2%
40～49歳	135	4	10	53	64	1	3
	100.0%	3.0%	7.4%	39.3%	47.4%	0.7%	2.2%
50～59歳	220	17	23	73	96	3	8
	100.0%	7.7%	10.5%	33.2%	43.6%	1.4%	3.6%
60～69歳	217	10	22	81	94	7	3
	100.0%	4.6%	10.1%	37.3%	43.3%	3.2%	1.4%
70歳以上	397	38	44	144	133	12	26
	100.0%	9.6%	11.1%	36.3%	33.5%	3.0%	6.5%

２.６.４ 雑がみを家庭ごみとして出す理由

「②分別が面倒なため」の割合が最も高く 38.2%となっている。次いで、「①ルールを知らなかったため（35.9%）」、「③その他（18.3%）」となっている。

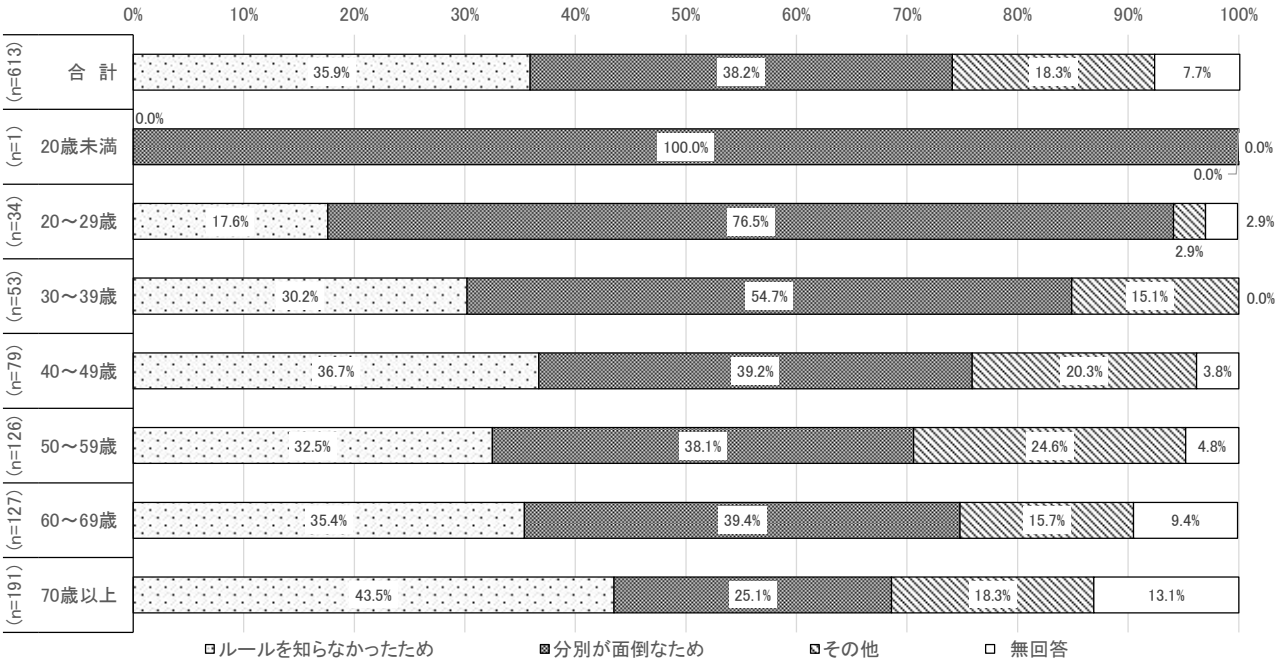
図表 120 雑がみを家庭ごみとして出す理由

（n=613）



年齢別に見ると、「20～29 歳」における「分別が面倒なため（76.5%）」、「30～39 歳」における「分別が面倒なため（54.7%）」等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

図表 121 雑がみを家庭ごみとして出す理由（年齢別）



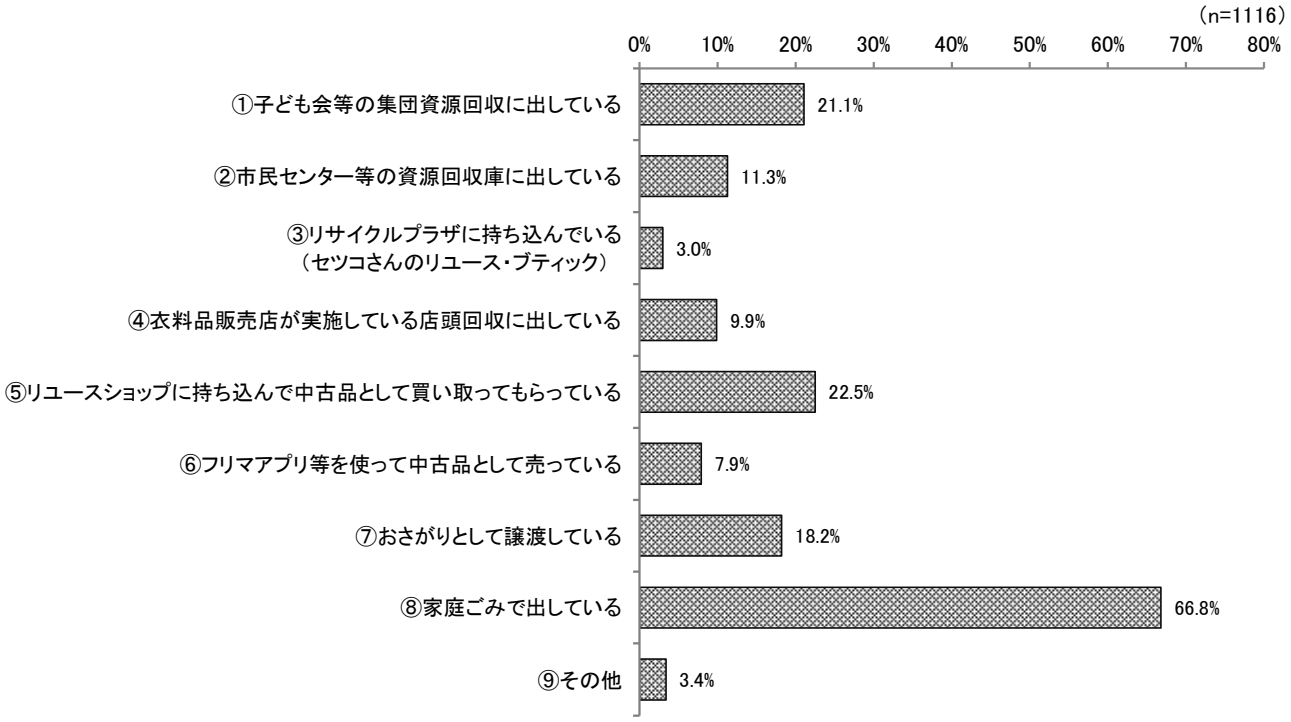
	合 計	ルールを知らなかったため	分別が面倒なため	その他	無回答
合 計	613	220	234	112	47
	100.0%	35.9%	38.2%	18.3%	7.7%
20歳未満	1	0	1	0	0
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	34	6	26	1	1
	100.0%	17.6%	76.5%	2.9%	2.9%
30～39歳	53	16	29	8	0
	100.0%	30.2%	54.7%	15.1%	0.0%
40～49歳	79	29	31	16	3
	100.0%	36.7%	39.2%	20.3%	3.8%
50～59歳	126	41	48	31	6
	100.0%	32.5%	38.1%	24.6%	4.8%
60～69歳	127	45	50	20	12
	100.0%	35.4%	39.4%	15.7%	9.4%
70歳以上	191	83	48	35	25
	100.0%	43.5%	25.1%	18.3%	13.1%

2.7 衣類・布類について

2.7.1 衣類・布類の出し方

「⑧家庭ごみで出している」の割合が最も高く 66.8%となっている。次いで、「⑤リユースショップに持ち込んで中古品として買い取ってもらっている（22.5%）」、「①子ども会等の集団資源回収に出している（21.1%）」となっている。

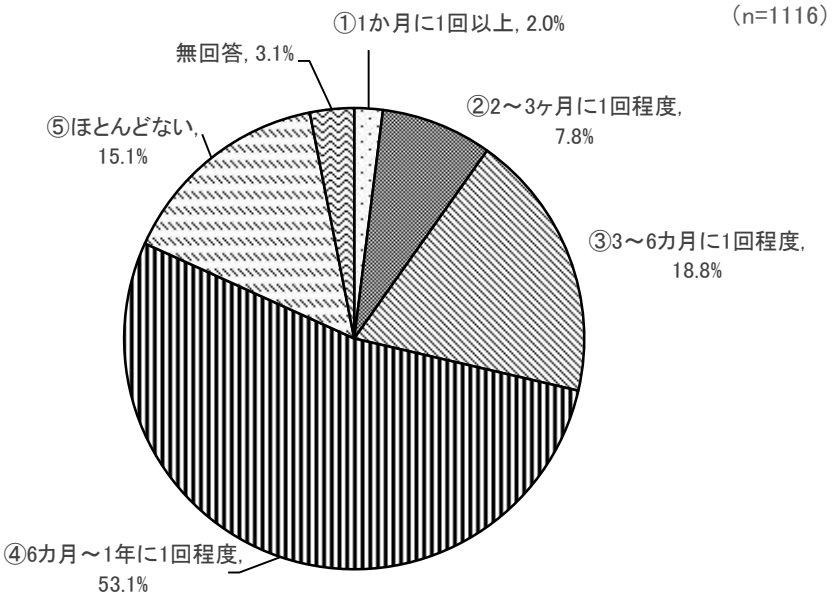
図表 122 衣類・布類の出し方 ※該当するものすべてを回答



２.７.２ 衣類・布類の排出頻度

「④6 カ月～1 年に 1 回程度」の割合が最も高く 53.1%となっている。次いで、「③3～6 カ月に 1 回程度（18.8%）」、「⑤ほとんどない（15.1%）」となっている。

図表 123 衣類･布類の排出頻度

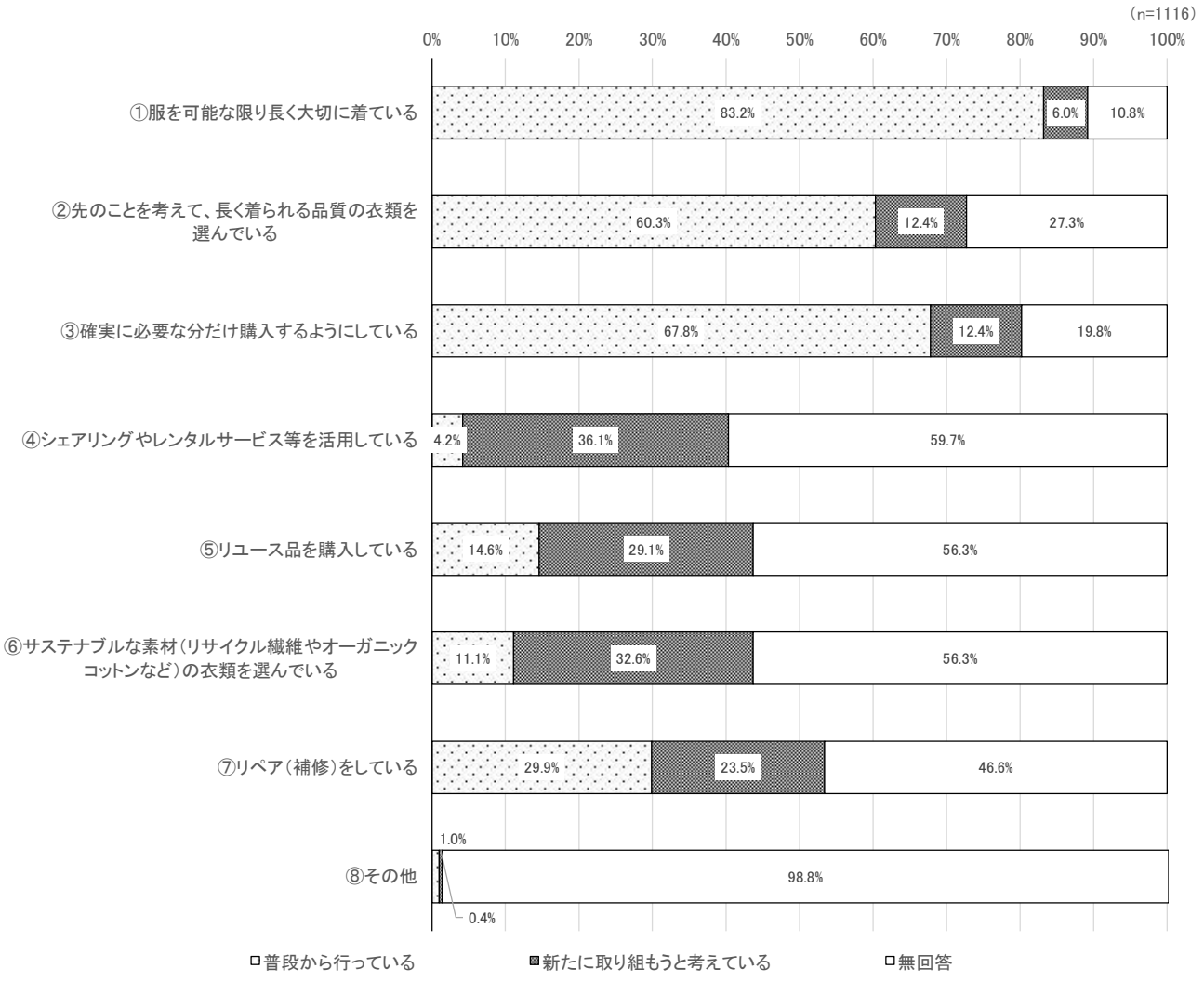


２.７.３ 衣類・布類のごみ削減やリユース、リサイクルのための現在の取り組み状況及び新たに取り組もうと考えていること

「普段から取り組んでいる」割合が高い取り組みは、「①服を可能な限り長く大切に着ている（83.2%）」、「③確実に必要な分だけ購入するようにしている（67.8%）」となっている。

「新たに取り組もうと考えている」割合が高い取り組みは、「④シェアリングやレンタルサービス等を活用している（36.1%）」、「⑥サステナブルな素材（リサイクル繊維やオーガニックコットンなど）の衣類を選んでいる（32.6%）」となっている。

図表 124 衣類・布類のごみ削減やリユース、リサイクルのための現在の取り組み状況及び新たに取り組もうと考えていること ※該当するものすべてを回答



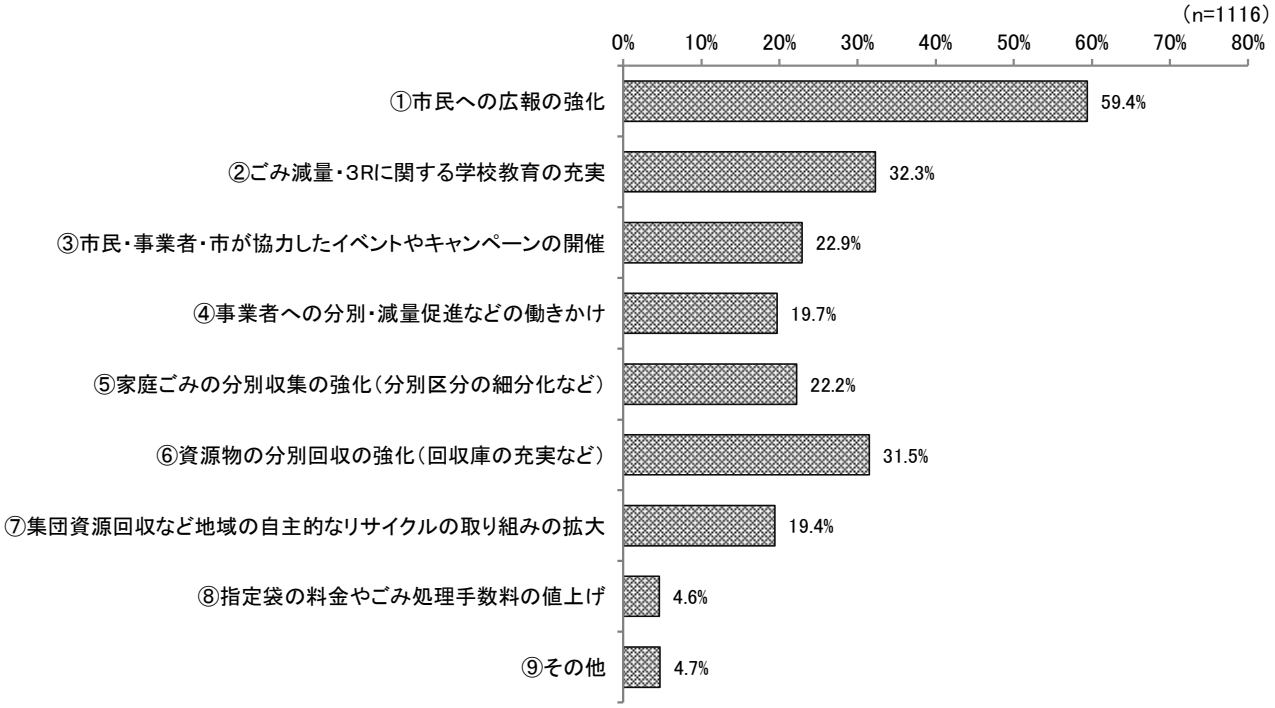
２.８ 更なるごみ減量・3R の推進について

２.８.１ 全般

市が講じるべき施策（全般）について、「①市民への広報の強化」の割合が最も高く 59.4%となっている。次いで、「②ごみ減量・３R に関する学校教育の充実（32.3%）」、「⑥資源物の分別回収の強化（回収庫の充実など）（31.5%）」となっている。

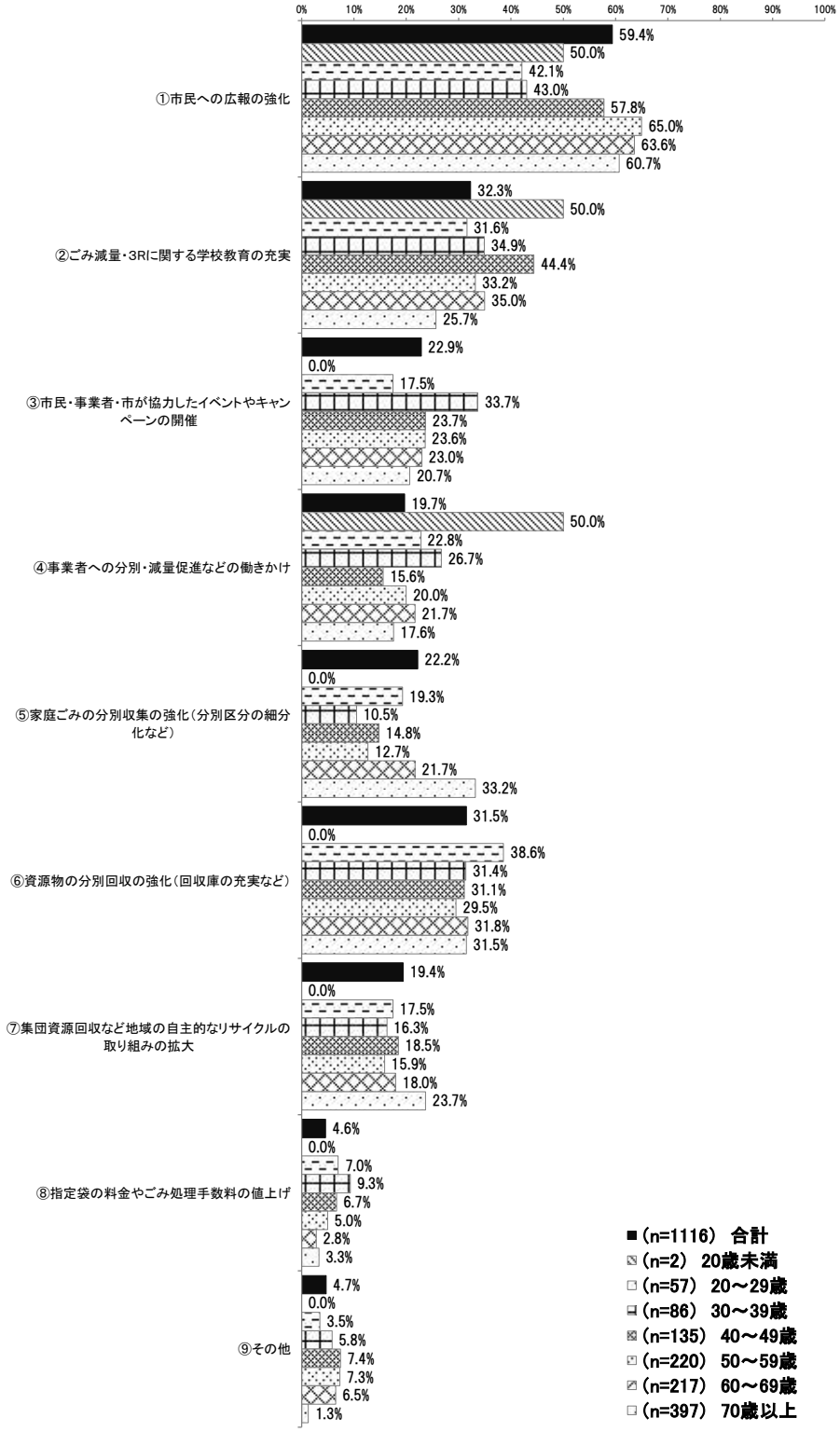
「⑧指定袋の料金やごみ処理手数料の値上げ」の割合は最も低く 4.6%となっている。⑧を回答した市民の自由回答では、「家庭ごみ指定袋とプラスチック資源指定袋の料金差をより大きくすることでリサイクル量が増加するのではないか」、「子ども達の学校教育が重要ではないか」、等の回答が見受けられた。

図表 125 市が講じるべき施策（全般） ※該当するもの3つまで回答



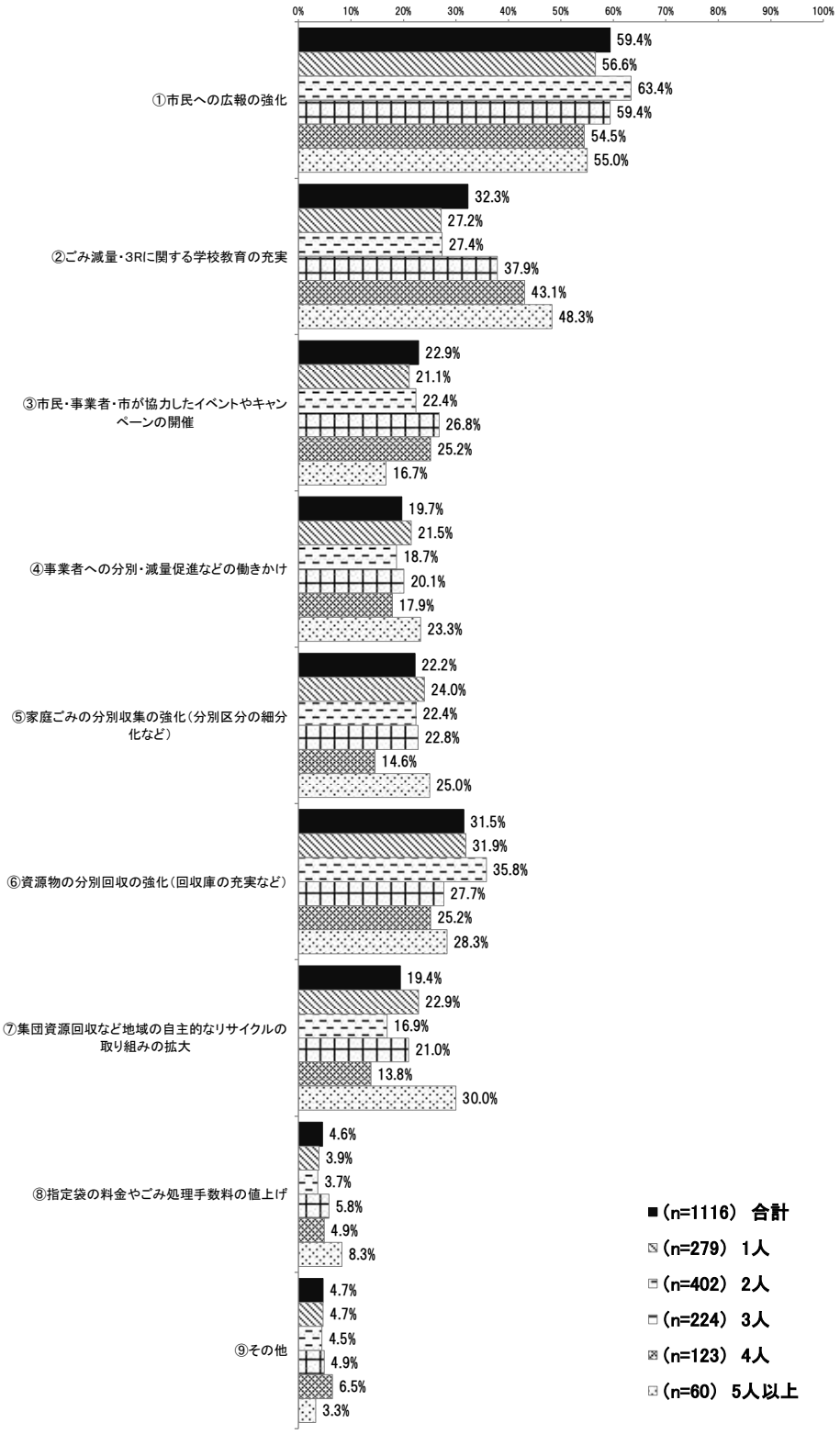
年齢別に見ると、「③市民・事業者・市が協力したイベントやキャンペーンの開催」の割合は、30 代以降については、年齢が高いほど低い傾向みられ、「⑦集団資源回収など地域の自主的なリサイクルの取り組みの拡大」の割合は、年齢が高いほど高い傾向にある。「⑧指定袋の料金やごみ処理手数料の値上げ」の割合は、20 代～40 代が高い傾向にある。

図表 126 市が講じるべき施策（全般）（年齢別）



同居人数別に見ると、「②ごみ減量・3R に関する学校教育の充実」の割合は、同居人数が多いほど高い傾向にある。「⑧指定袋の料金やごみ処理手数料の値上げ」の割合は、3 人以上が高い傾向にある。

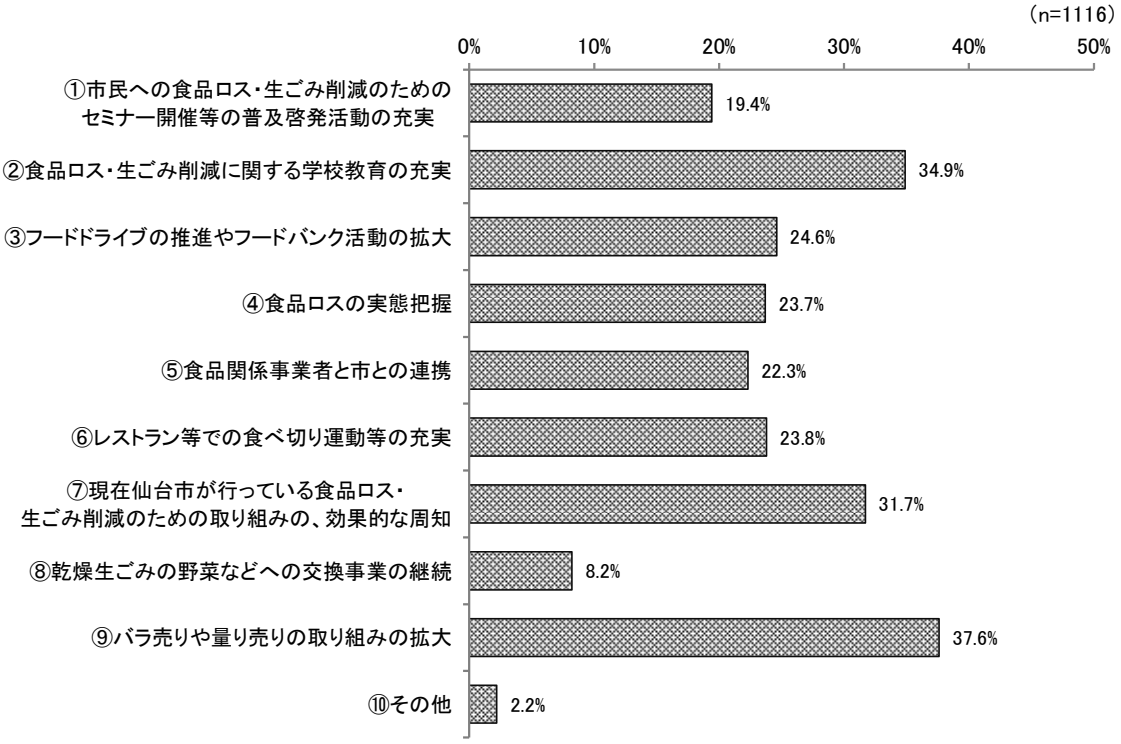
図表 127　市が講じるべき施策（全般）（同居人数別）



２.８.２ 食品ロス・生ごみの削減

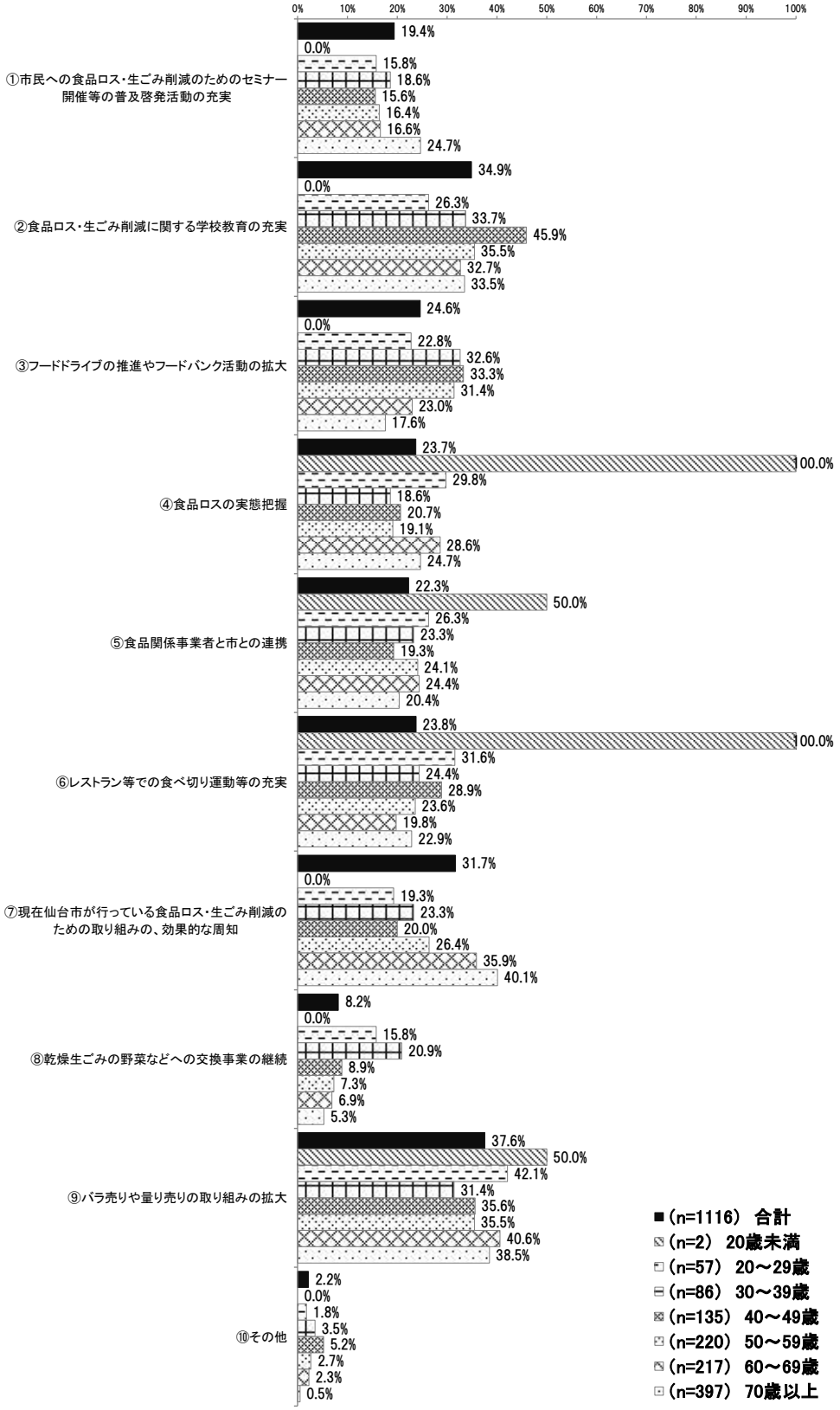
「⑨バラ売りや量り売りの取り組みの拡大」の割合が最も高く 37.6%となっている。次いで、「②食品ロス・生ごみ削減に関する学校教育の充実（34.9%）」、「⑦現在仙台市が行っている食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの、効果的な周知（31.7%）」となっている。

図表 128 市が講じるべき施策（食品ロス・生ごみの削減） ※該当するもの3つまで回答



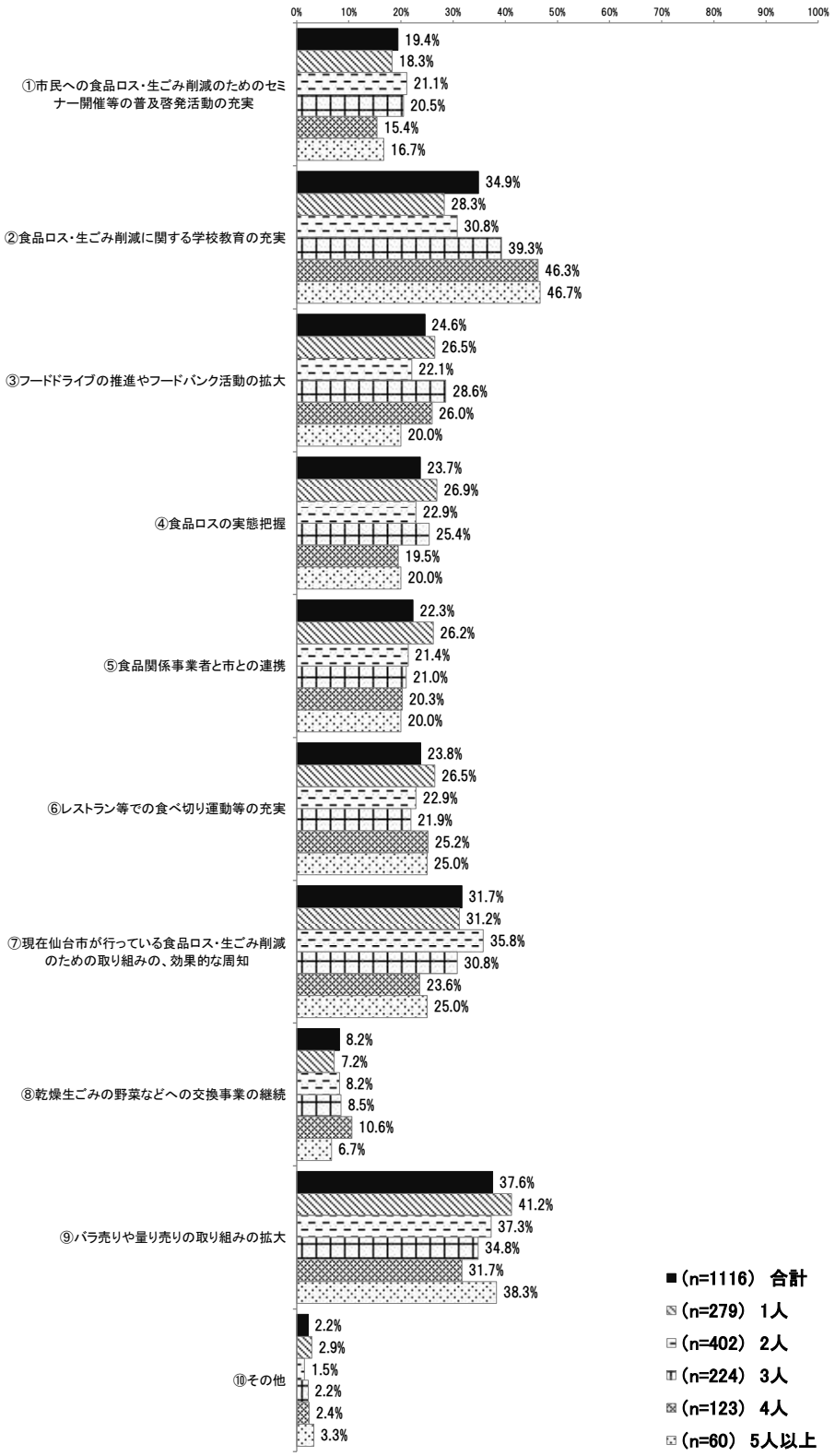
年齢別に見ると、「⑦現在仙台市が行っている食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの、効果的な周知」の割合は、年齢が高いほど高い傾向にある。

図表 129 市が講じるべき施策（食品ロス・生ごみの削減）（年齢別）



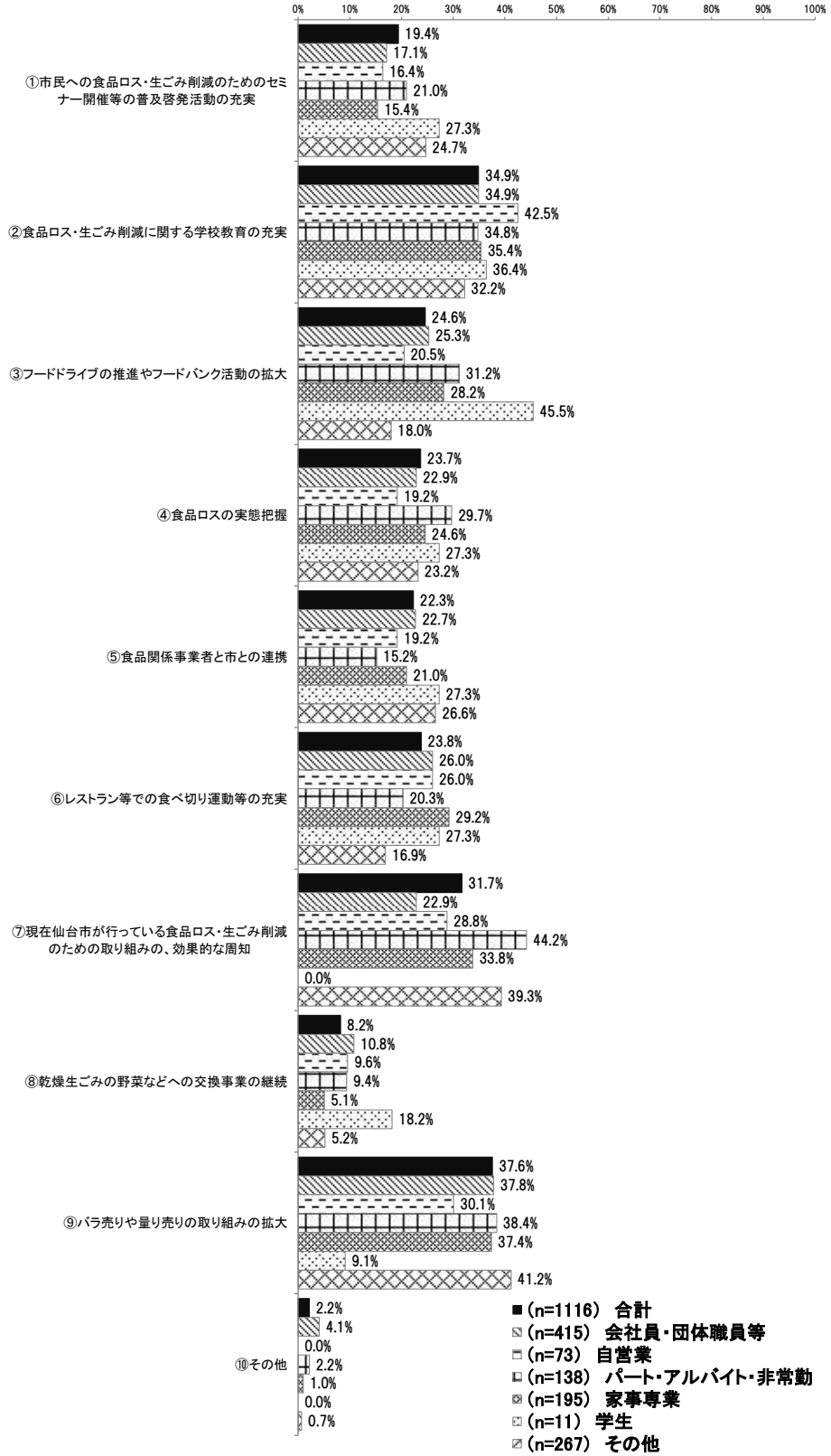
同居人数別に見ると、「⑤食品関係事業者と市との連携」の割合は、同居人数が多いほど低い傾向にある。「②食品ロス・生ごみ削減に関する学校教育の充実」の割合は、同居人数が多いほど高い傾向にある。

図表 130 市が講じるべき施策（食品ロス・生ごみの削減）（同居人数別）



職業別に見ると、「学生」における「③フードドライブの推進やフードバンク活動の拡大（45.5%）」、「パート・アルバイト・非常勤」における「⑦現在仙台市が行っている食品ロス・生ごみ削減のための取り組みの、効果的な周知（44.2%）」等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

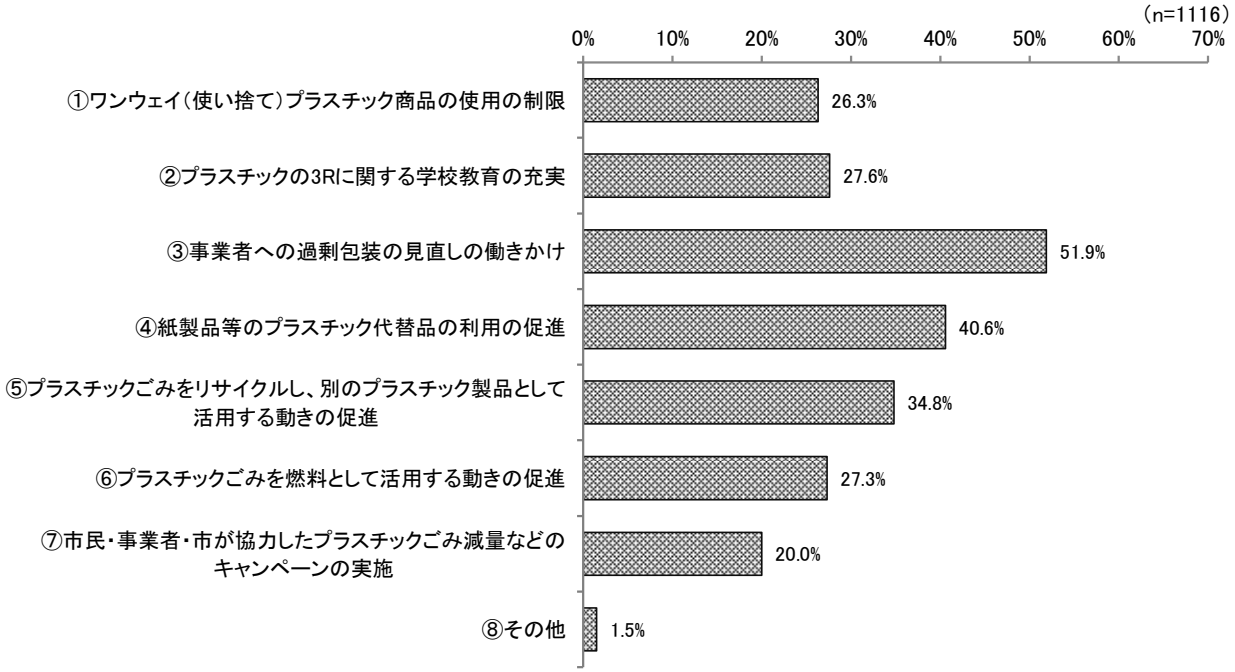
図表 131 市が講じるべき施策（食品ロス・生ごみの削減）（職業別）



2.8.3 プラスチックごみの削減・リサイクルの促進

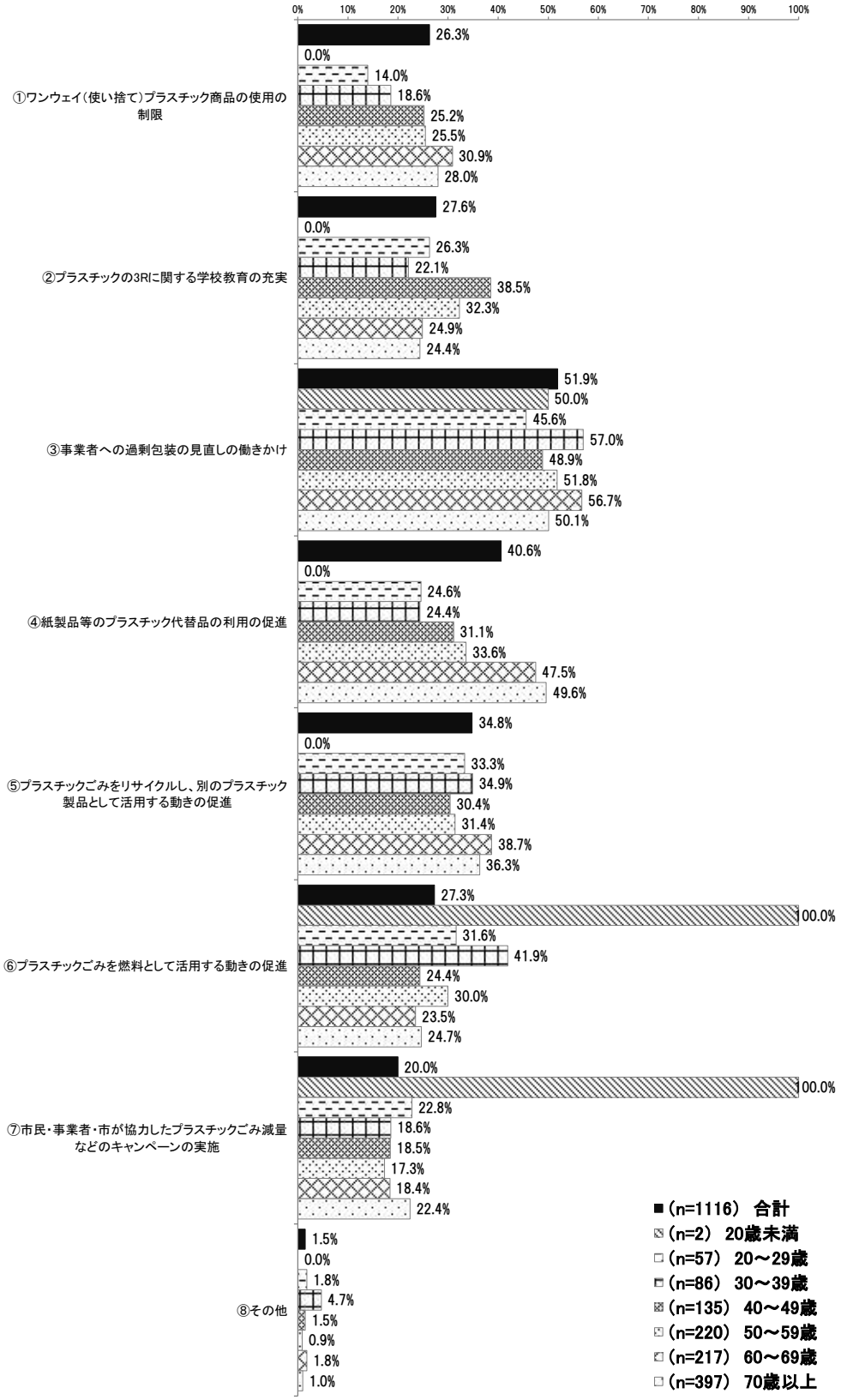
「③事業者への過剰包装の見直しの働きかけ」の割合が最も高く 51.9%となっている。次いで、「④紙製品等のプラスチック代替品の利用の促進（40.6%）」、「⑤プラスチックごみをリサイクルし、別のプラスチック製品として活用する動きの促進（34.8%）」となっている。

図表 132 市が講じるべき施策（プラスチックごみの削減・リサイクルの促進） ※該当するもの3つまで回答



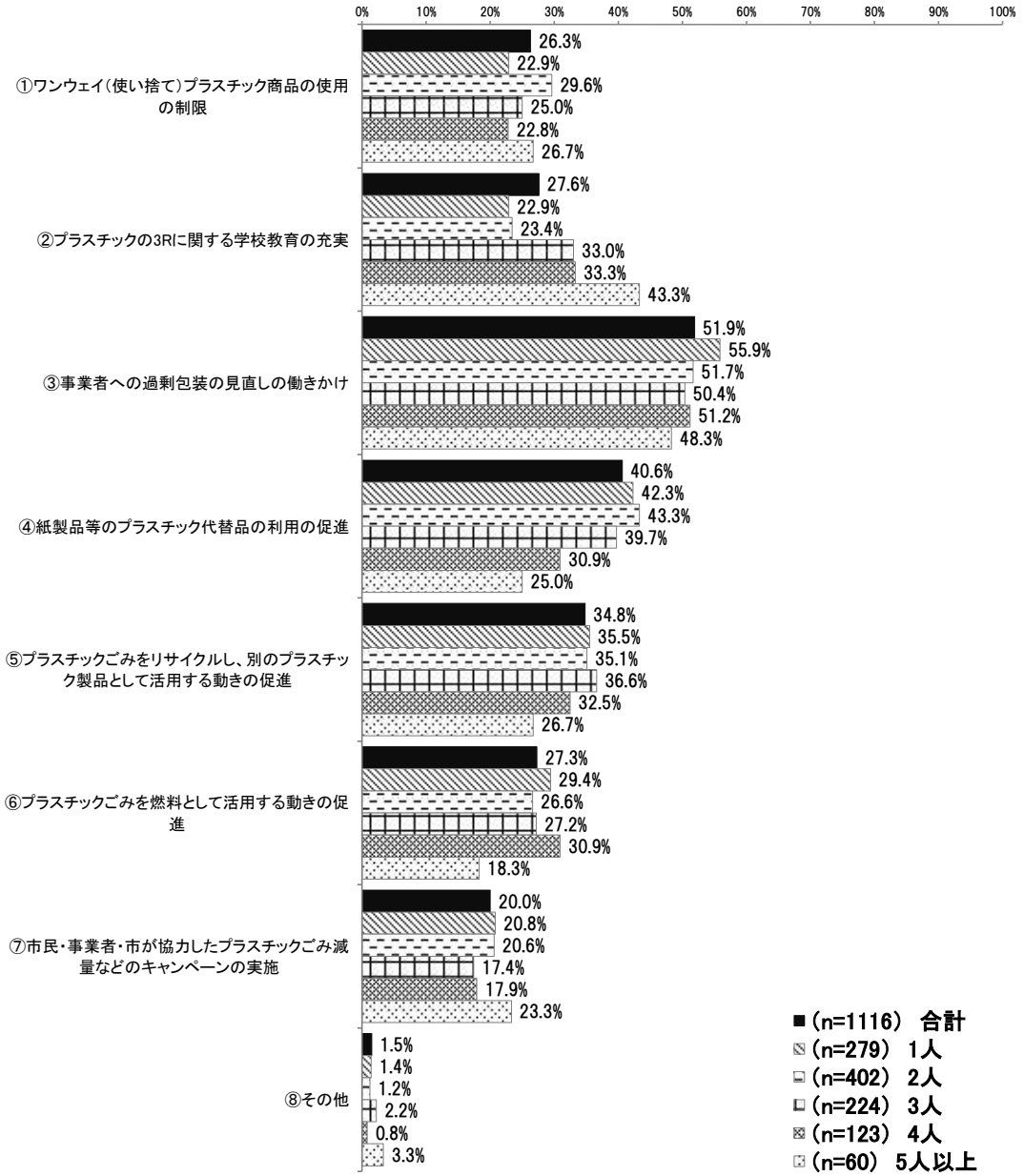
年齢別に見ると、「①ワンウェイ（使い捨て）プラスチック商品の使用の制限」、「④紙製品等のプラスチック代替品の利用の促進」の割合は、年齢が高いほど高い傾向にある。

図表 133 市が講じるべき施策（プラスチックごみの削減・リサイクルの促進）（年齢別）



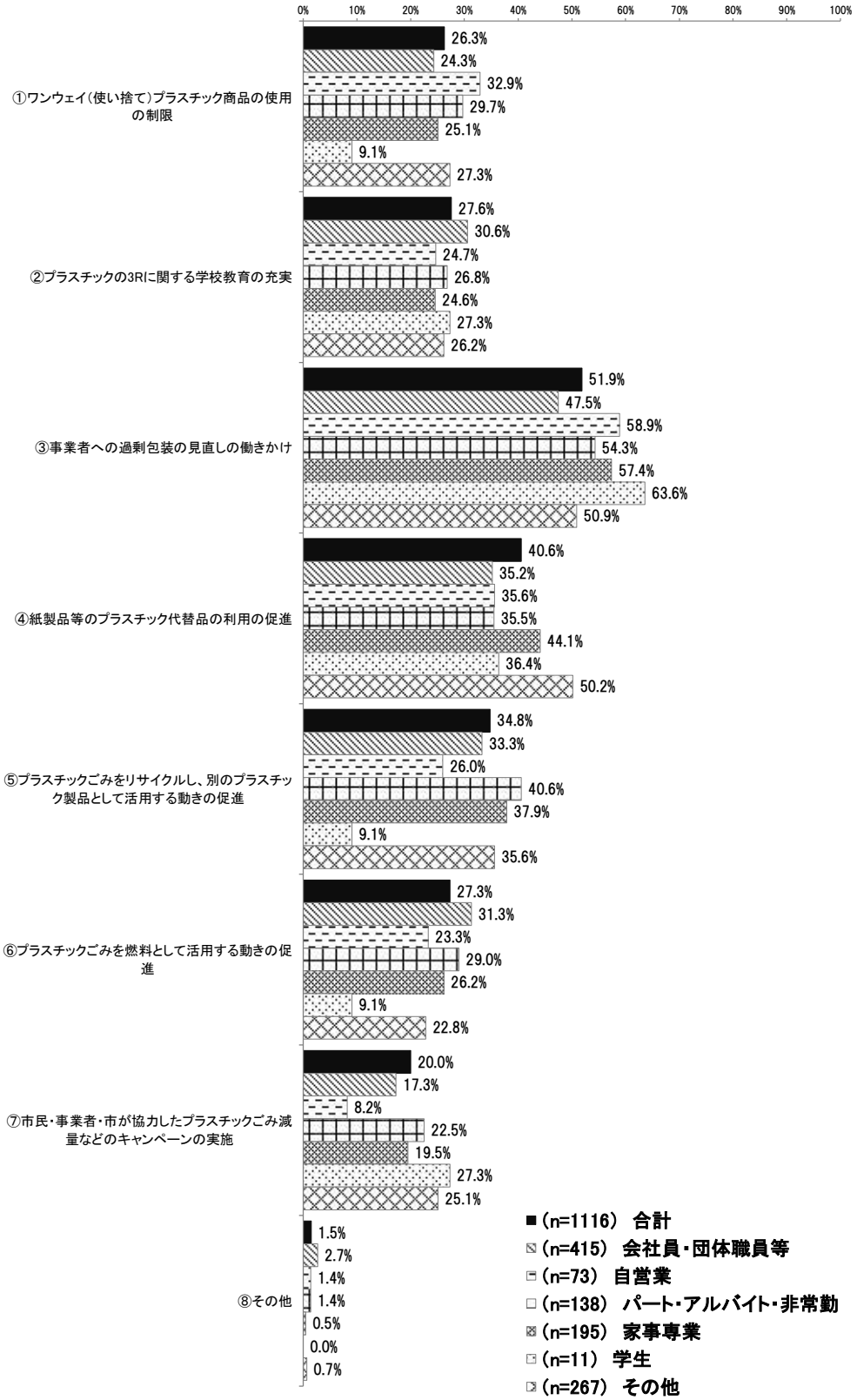
同居人数別に見ると、「④紙製品等のプラスチック代替品の利用の促進」の割合は、2 人までは全体よりも高いが、3 人以上は同居人数が多いほど低い傾向にある。「②プラスチックの 3R に関する学校教育の充実」の割合は、同居人数が多いほど高い傾向にある。

図表 134 市が講じるべき施策(プラスチックごみの削減・リサイクルの促進)(同居人数別)



職業別に見ると、「③事業者への過剰包装の見直しの働きかけ」における「学生（63.6%）」及び「自営業（58.9%）」等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

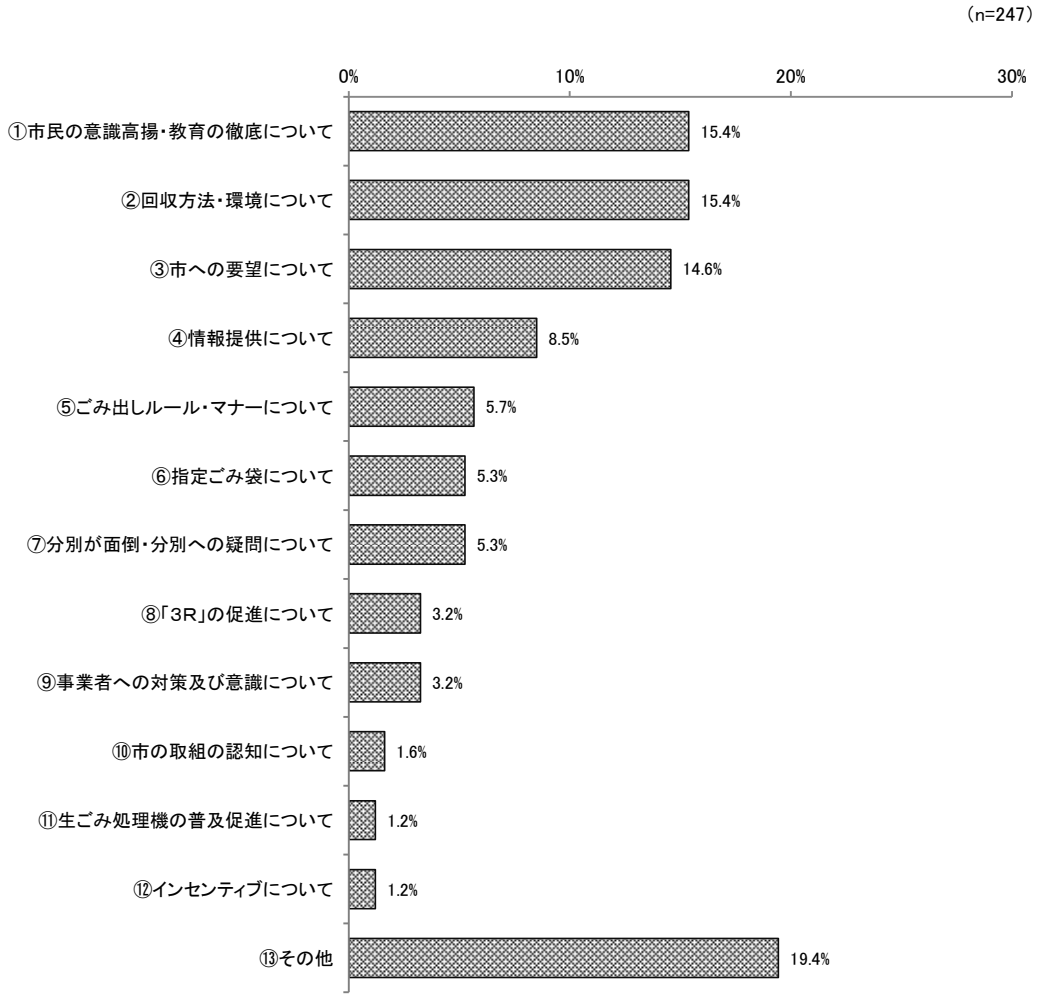
図表 135 市が講じるべき施策（プラスチックごみの削減・リサイクルの促進）（職業別）



２.９ 自由回答

仙台市のこれまでのごみ処理施策や今後のごみ処理施策の方向性等について自由記載で意見を求め、以下の 13 分類の回答集計を行った。「⑬その他」が最も高く 19.4%となっている。次いで、「①市民の意識高揚・教育の徹底について」、「②回収方法・環境について」がいずれも 15.4%となっている。

図表 136 自由回答の内容及び件数



(全 247 件のうち)主な回答

【①市民の意識高揚・教育の徹底について】
- 学生や単身者などのアパート住民に対する教育。又あっせんする不動産業者などを通じ厳しくルールを守らせる。(太白区　70 歳以上　男性)
- ごみ分別の周知不足、環境に与える影響への教育不足、学校での外部講師による教育(みちのく EMS 他)。会社では若い人も分別してないので学校での教育必要。(泉区　50～59 歳　女性)
- ごみの分別から 1 人 1 人が自覚を持って対処していく事が大事だと思う。生ごみの水切りの徹底を心がける。家庭ごみの内生ごみの水分が多くをしめている実態を周知して皆が気をつけていく様にうながす。(太白区　60～69 歳　女性)
- マンションの管理人をしていますが、ごみの分別が全く出来ていません。例えば、資源ごみに平気で、瀬戸物容器やガラス(割れたもの)片を入れたりしてきます。その他の捨て方でも、ペットボトルに飲料が残ったままとか、しょうゆ瓶(or プラ)にしょうゆが残っていたりする場合も

あります。又、生ものの汁が残ったまま捨てるとかです。もっと分別方法について、あるいは捨て方について告知、教育が必要に思います。（太白区　70 歳以上　男性）
・分別方法を市民の一人一人に、広告やポスターにて周知し、町内会等の集会時に指導や教育し、その機会を増やしていけば良くなると思う。（青葉区　60～69 歳　男性）
・ごみの分別はしっかり行っている自信があり、仙台市のルールやごみ削減の取り組みを理解しているつもりでいたが、知らないものもあったため今回意識調査に参加できて良かったと感じた。（若林区　40～49 歳　男性）

【②回収方法・環境について】
・ダンボール回収が月 2 回は少ないです。他自治体では週 1 回(月 4 回)あります。また、スーパーでも食器トレイのみの回収を行うところ、加えてびん缶も回収するところなど様々で、まとめて回収ボックスへ持参するのに、1km 近く離れたスーパーを行き来することもあります。全てのスーパーで、トレイ、びん、缶、卵パック、牛乳パックを一通り回収できるようボックスを設置してほしいです。（青葉区　30～39 歳　男性）
・知らないことも多いが、例えば資源回収庫や回収用容器等については知ってはいても身近にないと、つい面倒になり、簡単な方法で処理する人が多くなる。（青葉区　70 歳以上　男性）
・衣類・布類について、月 1 回程度の回収日の指定をお願いします。（宮城野区　70 歳以上　男性）
・先日、大きなプラスチック製品の無料回収を今泉リサイクルプラザに直接、持込みということで回収されてましたが、一人暮らしで、持込手段がない為、出来れば、期間限定で町内会のごみ集積所でも回収していただけたら助かります。（泉区　70 歳以上　女性）
・紙類の収集日が、月 2 回であるため、5 週ある月は、3 週間収集がないので、5 週の月は 3 回回収してほしいです。（青葉区　70 歳以上　女性）
・カラスなど害鳥類のごみ置場対策をしてほしい（太白区　60～69 歳　男性）
・なかなか難しいとは思いますが、カラスや小動物による、ごみ散乱防止のためにも、鉄柵の設置を増やしてほしい。（太白区　60～69 歳　男性）

【③市への要望について】
・楽しく習慣化する事が定着になると思うので、ワケルくんやワケ猫ちゃん等を活用して目でわかる、パッと見てわかる、愛されるキャラクター戦略で進めてほしい。（青葉区　50～59 歳　女性）
・保存版「資源とごみの分け方・出し方」が解りにくい。ポイントをしぼって、字・絵を大きくし、解り易い表現にしてほしい。環境事業所の担当の方には電話問い合わせで迷惑をかけています。（泉区　70 歳以上　男性）
・疑問に何でも答えてくれる電話があればと(あるのかも知れませんが)思います。（青葉区　70 歳以上　女性）
・市政だよりに書かれても、なかなか読まないので広報活動の方法を考えてほしいです。（青葉区　70 歳以上　女性）
・ごみの分別方法、処理の仕方等、情報収集の仕方が難しい。もう少し、簡素化して欲しい。（宮城野区　40～49 歳　女性）
・リサイクル活動によって、市民がどのような利益を受ける事ができるのかが、全くわからない。どれくらいの経費をかけていて、どれくらいの利益があるのか。あるいは具体的な成果がどれほどあるのかを市民に明確に示す必要がある。（宮城野区　50～59 歳　男性）
・どれが家庭ごみでどれが、プラスチックごみなのか、又雑がみの内容、種類が事細かく示している物で家の中に掲示できるものがほしいです。（若林区　40～49 歳　女性）

【④情報提供について】
・「プラごみ」、「一般ごみ」の処理方法についての広報活動の強化。（泉区　70 歳以上　男性）
・小型充電式電池の処分の仕方が全くわからない。どういうものなのか、わかりやすい説明があれば良いかと思います。（若林区　70 歳以上　女性）
・20 年以上仙台に住んでいますが、知らないルールが多いと感じました。より、積極的な周知が必要だと思います。頑張って下さい。（青葉区　30～39 歳　男性）

・ごみが増えるのだが以前の様に、ごみのパンフレットを配布してほしい。分かりやすかった。ネットのホームページは分かりづらい!!（太白区　60～69 歳　男性）
・乾燥生ごみの野菜などへの交換事業やヨーグルト容器などのコーティングがされた紙容器の資源回収庫は知らなかったので、もっと PR する必要があると思う。（太白区　50～59 歳　女性）
・YouTube 等、ネットの情報発信に力を入れ、街の至る所に広告を貼れば嫌でも気付き、皆意識するようになる。（宮城野区　20～29 歳　男性）

【⑤ごみ出しルール・マナーについて】
・街の中が、いつも、きれいであり感謝してます。中心部、特に、飲食店、朝カラスが、袋、破っている・・・清掃の人が、寄せ集め回収している。どうか、飲食店にルール守るよう、お話してほしい。マンション等の管理人が住民にマナー守るよう厳しいですよ。（青葉区　70 歳以上　男性）
・住民ひとりひとりがマナーを守ってごみ処理をしてほしい。（宮城野区　70 歳以上　女性）
・町内のクリーン仙台推進員をさせていただいていますがごみ出しのルールが守られていないのが現状です。啓発ポスターを貼っても見向きもされません。(ごみ処理施策の意見でなく申し分ありません)（太白区　60～69 歳　女性）

【⑥指定ごみ袋について】
・プラスチック類が赤指定袋で出すことができ、大変助かっている。（若林区　70 歳以上　男性）
・家庭ごみ袋、特小(10l)よりもっと小さい袋を出してほしいです。ごみが少ないので。（青葉区　50～59 歳　女性）
・ごみ袋を無償にしてほしい。（泉区　70 歳以上　男性）
・ごみ袋が高いので、なるべく使わないようにとなってしまい、分別しようとする気がなくなってしまいます。ごみ袋の料金を安くしてほしいです。（若林区　20～29 歳　女性）

【⑦分別が面倒・分別への疑問について】
・日頃ごみ収集、分別してくださっている方々にとても感謝しております。「スプレー缶は、中身を使い切って」ですが、たとえばヘアスプレー買ったけど気に入らない。とかで、捨てたいけど、まだ中身がたくさん入っている。このような時は、どうすればいいのでしょうか?また、ごみじゃないけど、使用期限の切れた小型のスプレータイプの消火器処分に困ってます。ホームセンターでは引き取り不可と言われました。出来れば消防署での回収お願いしたいです。防災意識を高めるため、なんとかしてほしい。切実な悩みです。（宮城野区　50～59 歳　女性）
・「雑がみ」は、どこまでの大きさの物も含まれるのか、詳しく知りたい。（太白区　50～59 歳　女性）
・雑がみ分別がやりにくい。ハガキ、ダイレクトメール等、プライバシーについて心配。雑がみまとめる紙袋がない。出す頻度が少なく、ごみとして家の中にずっとある。（太白区　60～69 歳　女性）
・一般ごみに関しては分別強化しているのに、営業ごみで分別していないのがそもそも疑問。家庭にいる時間より、会社や職場の滞在時間が長い為分別せずに捨てれる環境があれば身につかないのでは?そう言っている人も実際います。紙、燃えるごみ、プラスチックスプーン、ペットラベル全て混合ですよね?（青葉区　50～59 歳　女性）

【⑧「３Ｒ」の促進について】
・いろいろとお世話になっております。引続きどうぞよろしくお願いします。アンケートを通じさらにリサイクル推進に努めたいと思いました。（若林区　60～69 歳　男性）
・「3R」やエコバック利用で家庭ごみの量はかなり減りました。今は生ごみ減量に取り組んでいます。プラスチックごみをもっと減らせるといいと思います。皆がごみ捨てのルールを守り、「3R」に取り組めるといいと思います。（青葉区　60～69 歳　女性）
・プラスチックはどこまで(何回まで)リサイクルできるのか、リサイクルしなくても良いプラスチックの研究・開発が必要と思う。便利だけど海洋汚染のもととなり始末が悪い。（泉区　70 歳以上　女性）

【⑨事業者への対策及び意識について】
・仙台市は他の地方自治体よりごみの細分化が進んでおり大変結構なことである。事業者への過剰包装の見直しを強力に要請してほしい。マイバックの利用を強力に推進すべき。マンション居住者は畑等がないため、生ごみを堆肥化しても活用出来ない、収集出来ないか検討してほしい。家庭等で余った食品を持ち込める回収場所を増してほしい。市制だより等キャンペーンは知りつくしているが、回収出来る場所が遠距離で持ち込めない。(高齢者のため)なるべく近くに回収場所を増やしてほしい。（太白区　70 歳以上　男性）
・委託の清掃回収員の対応法・運転法には日頃から不満を持っています。せっかく市民の為に良い事をしているのに、ごみの扱いは雑に行っていて、逆に集積所をよごしたり、運転は荒く、我が者顔での運転、狭い住宅地(すれちがいが難しい)ところでは中々道をゆずらないわりに、我々が車を停めて(車の乗り降りのため)いると、クラクションを鳴らしたり、空ぶかしをしてあおったりする清掃員を数多く目撃しています。（太白区　50～59 歳　男性）

【⑩市の取組の認知について】
・仙台市が地球温暖化対策及びごみ減量に関し真剣に取り組まれていることがうかがい知ることができました。これ程までの細部にわたりアンケートの調査項目、本当にびっくりする位です。担当職員の皆様、ご苦労様です。私共も協力をおしまずごみ減量に努力していきます。（宮城野区　70 歳以上　男性）
・今回の意識調査でペットボトルをつぶして出すことを初めて知った。市の施策がとれほど認知されているかをどのように把握しているのか知りたい。（太白区　60～69 歳　男性）
・仙台市が今までごみ処理に対して行ってきた施策をあまり知らない。それ程興味がない、触れる機会がなかったということだと思う。自分の周りには全く分別していない人も居り、若者中心に同じような人が多いのでは？もっと身近に感じられるようになればいいのに。（泉区　20～29 歳　女性）

【⑪生ごみ処理機の普及促進について】
・生ごみを乾燥してカラカラにする機械が我が家にあり利用しています。それを一家に一台あれば、少し生ごみだけでも減少することができるのではないでしょうか?そんなに高額なものではありませんが購入費用の助成してもらえればと思います。（青葉区　50～59 歳　女性）

【⑫インセンティブについて】
・ごみを減らす活動が個人個人の"オトク"に直結するような仕組みがあればさらに減量化やリサイクルが促進されると思います。（宮城野区　60～69 歳　女性）
・スーパーで気軽にダンボールや紙類、ペットボトルの回収とそれに準じてポイントが付与される仕組みが嬉しいため、さらに拡大してほしいです。（太白区　40～49 歳　女性）

【⑬その他】
・住宅地でない場所でごみを処理(焼く)などできたら良い。焼いた後も畑などに入れるなどできるので。ごみ焼の容器など利用できてやれたらごみとして出す量が減る。（太白区　70 歳以上　女性）
・ワケルくんの絵がかわいくて冊子を読みやすかったので漫画やエッセイ調だと若い人も読みやすくなるのかと思いました。（若林区　40～49 歳　女性）
・プラスチックごみの範囲が広がり、良い事だと思った。もっと燃料としての活用が増えればと考えている。（泉区　60～69 歳　女性）
・今回のアンケート内容で、知らなかったことを知るきっかけになったので良かったと思いました。(庭木をせん定した枝等の戸別無料収集は次回から利用したいと思います)　これからお歳暮の時期で、りんごやみかん等贈られてきます。美味しければすぐ消費できるのですが、たまに、美味しくないものもあり、人にもあげられず、結局捨ててしまうことがあるので、消費できない(まだ食べられる)果物を生ごみにせず、活用する方法など考えていただきたい。乾燥生ごみについても今度調べてみたいと思います。（若林区　40～49 歳　女性）
・レジ袋有料化の効果を正しく評価し、見直してほしい。（青葉区　30～39 歳　男性）